

真正宗教論

松井壽郎

020814-000-4

特47-464

真正宗教論

松井 壽郎/著

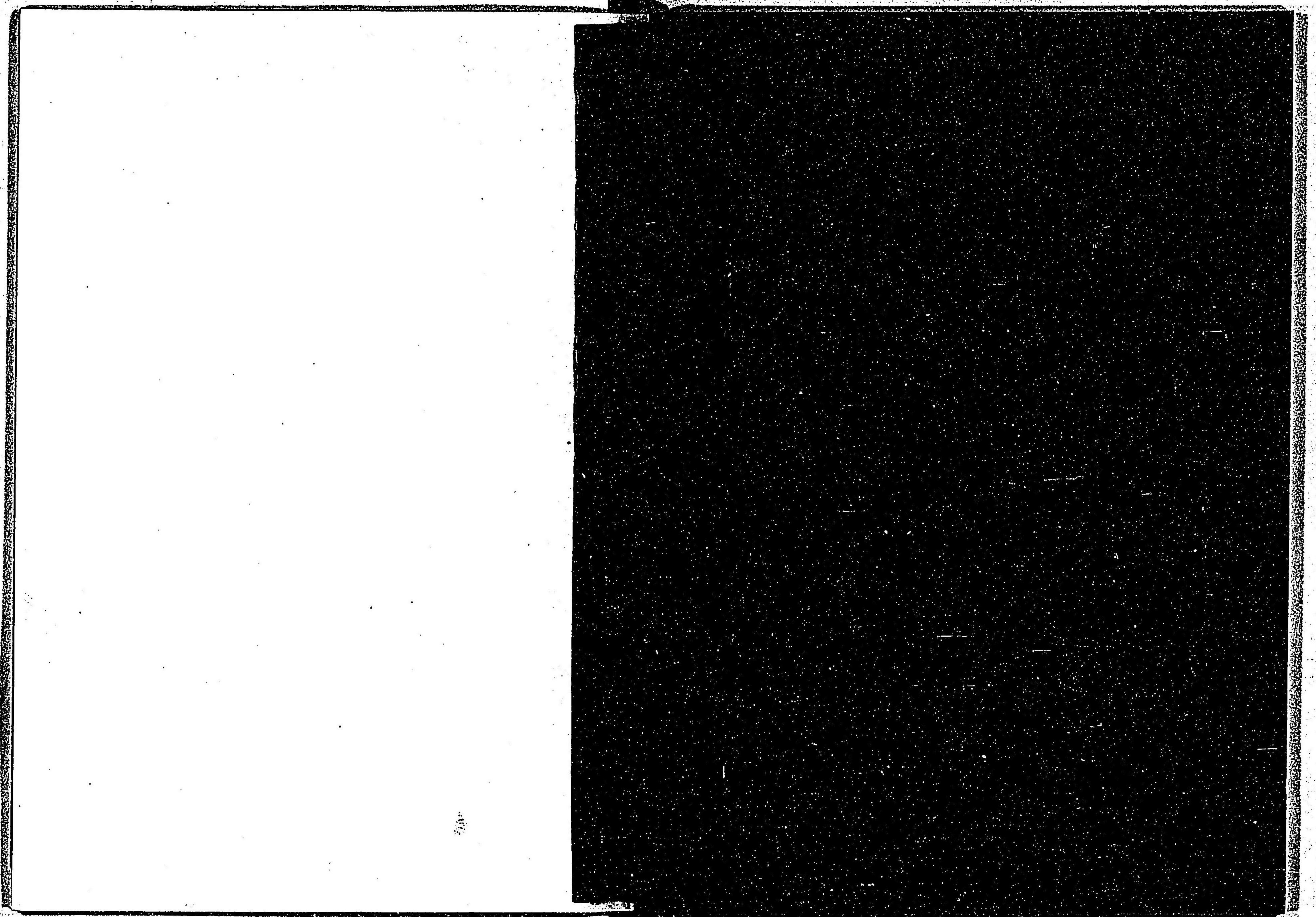
M22

ABI-0640



特

4



7-689

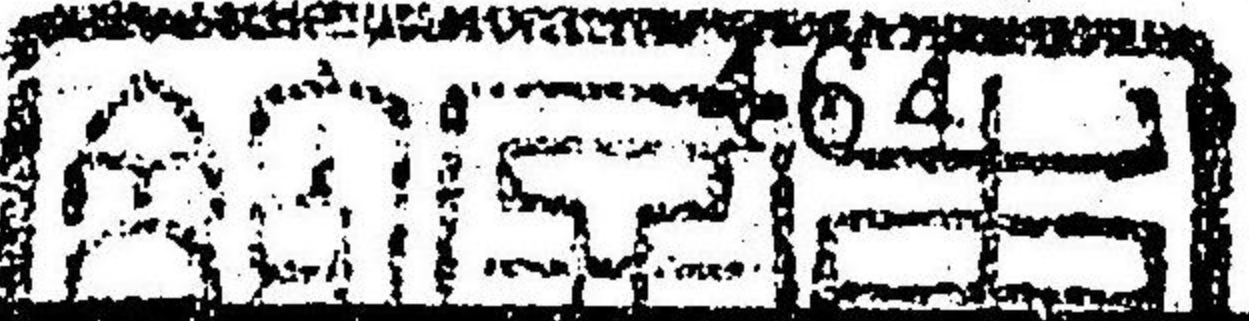
13
2
7

松井壽郎遺稿
針生高章訂正

真正宗教論完

明治廿二年七月出版
愛々社發行

特47 W218731/2



真正宗教論序

宗教之出者多矣，有天之所啓示，與人之所造爲也。夫
 之所啓示，深意遠，人之所造爲，淺短易測。斯二者相
 去何啻霄壤。然人避彼而由于此，海可怪也。抑人造之
 道，元屬虛構，則修之而無所獲，譬如夢裏過空鄉，一覺
 之後，宛然虛影，惟止枕頭冥漠之中而已。獨至天啓之
 道，則否。學之而有所收，譬如經過未見之實境，異寶珍
 玉，雜布，遙出于思想之外。縱迄千百年，不飽其大獲也。
 人烏容易擇之可乎。吾同勞者，針生君，深憂於世人之
 所擇無方，欲梓故神學士歷山松井氏所書真正宗教
 論而公之於世，遠請序于余。顧松井氏與余同鄉，素知

其爲人氏弱冠受業東京駿河臺神學校已卒學科又遊露京入大學益欲究天啓之道而爲本邦宣明之業未成中道而死惜哉乃若斯編係氏曾在饗內業暇所著書中所載固雖非盡天啓之蘊奧者專依古今聖賢之論理定法明證斯教之所以出於天啓足以窺實境之一斑真可謂松井氏澆熱血之遺書也方今宗教之著書盈天下然其爲書也概出於人造之空想未足使讀者飽飫焉則不過一場之夢話者比及是也乃知是書一出凡叩宗教之門者熟讀而有得則洗百年之睡目而探玉於寶山其有神於世教亦不爲鮮豈獨示天啓之門而已乎哉嗚呼針生君善繼松井氏志者也哉

書冠乎真正宗教論

明治廿二年六月吉日

仙臺

大島雲巖撰

真正宗教論序

天啓之道莫多種矣、多種則弗免於人爲、脩之者不可不擇也、蓋人爲者、其所說奇怪可喜、唯天啓者、其言平易、而理易明矣、雖然世之好怪也、大抵嫌拙於平易、明之理、而玩巧於奇怪、可喜之說、遂欲依其巧者、以排其拙者、而不知平易易明之理之永遠不滅也、昔吾教友、歷山松井君、夙志于天啓之教、刻苦學道、蓋十又餘年、常悲世人喜奇怪之說、而易迷歧路、嘗詳論天啓之道、不多種、題曰真正宗教論、其文簡而精、其理約而盡、一讀使人解迷誤、以知其所歸、其有神益於世、蓋不鮮矣、奉也、則亡、余頃日得之、其遺錄中、乃付剗、以頌同

志焉云爾、

明治廿二年夏六月

針生高章撰

真正宗教論目次

宗教ノ念ハ人性ノ固有ナリ	一
古今ノ民皆宗教ヲ有ス	三
宗教ハ偶然ニ現出セシ者ニアラズ	五
宗教ハ僧侶巫史ノ想出セシ者ニアラズ	七
宗教ハ掌理者ノ想出セシ者ニアラズ	八
宗教ハ人民無智ノ結果ニアラズ	九
宗教上ノ覺得ハ格物ノ理ト其旨趣ヲ異ニス	一一
格物ノ大家堅ク神ヲ認識ス	一三
神ノ存在ト靈魂ノ不死トハ宗教ノ根源ナリ	一五
万国史傳ノ合同ヲ以テ神ノ存在ヲ証ス	一七
史傳ト聖經トノ吻合ヲ以テ神ノ存在ヲ証ス	二〇
奇蹟ヲ以テ神ノ存在ヲ証ス	二一

方有事物ノ根源ヲ論シテ神ノ存在ヲ証ス	二二
宇宙ノ定法ヲ論シテ神ノ存在ヲ証ス	二六
靈魂ヲ以テ神ノ存在ヲ証ス	三〇
人心ニ絶待ノ思想アルヲ以テ神ノ存在ヲ証ス	三一
良心ノ活動ヲ以テ神ノ存在ヲ証ス	三四
希望ノ永久ナルヲ以テ神ノ存在ヲ証ス	三八
靈魂ノ三力自然ニ神ニ歸向ス	四〇
靈魂ノ有神不滅ナルヲ論ズ	四五
靈魂ハ身体組織ノ結果ニアラズ	四七
靈魂ハ身体ト共ニ滅亡スルモノニアラズ	五〇
靈魂ハ物体ト存亡ヲ同クセズ	五三
人ニ來世ノ生活ナカルベカラザルヲ論ズ	五五
地上ノ諸物ハ人心ノ希望ヲ飽カシムル能ハザルヲ論ズ	六〇

賞善罰惡ノ法ハ神明ノ公義ナルヲ論ズ	六三
重テ靈魂ノ三力ヲ擧ゲテ宗教ハ神人結合ノ性質ナルヲ論ズ	六九
神ノ已テ啓示スル自然ノ方法ヲ論ズ	七一
神ノ已テ啓示スル自然已上ノ方法ヲ論ズ	七二
神賜ト才力トノ必要ヲ論ズ	七四
神ヲ信ズルハ人間不可欠ノ義務ナルヲ論ズ	七六

真正宗教論目次了

真正宗教論

松井壽郎遺稿
陸前 針生高章訂正

宗教ノ念
ハ人性ノ
固有ナリ

夫レ喜怒哀樂ハ人ノ情ナリ故ニ天下ノ人皆此アラザルハ
ナシ宗教ノ念ハ人性ノ固有ナリ故ニ萬國萬民共ニ之ヲ具
ハザルハナシ之ヲ史乘ニ徴スルニ時ノ古今洋ノ東西ヲ論
セズ文野ノ別都鄙ノ分ナク萬國萬民皆某々ノ鬼神アリ以
テ信仰崇尊シ之ヲ敬畏シ之ニ叩拜シ之ニ謳歌シ之ニ祈禱
シ之ニ獻祭セザルハナシ人性ノ固有ニ非ルヨリハ曷ツ能
ク斯ノ如クナルヲ得ンヤアルタルノ古代ノ人民ヲ指メ曰
ク眼ヲ開キテ地ノ全面ヲ視ヨ屋壁ナク學術ナク政府ナキ
ノ部落ヲ見又貨幣ノ通用ヲ知ラズ建築ノ巧藝ヲ知ラズ恒

定ノ家屋アラザルノ蠻民ヲ見シ然リト雖決シテ神靈ヲ信
ゼザルノ人群ヲ見得ザルベシト宜ナル哉方今世界ノ人民
ニ於テモ亦宜ク斯ノ如ク云フベシ方今世界ニ名ヲ得タル
人民ノ宗教ヲ有スルハ言ヲ待タズシテ明ナリト雖彼ノ徒
跣裸體幾ト獸畜ニ類スルノ蠻民モ亦悉ク宗教ヲ有セザル
無キヲ以テナリ試ニ見ヨ歐米ノ諸學士梯山航海ノ危ヲ冒
シ萬里ノ波濤ヲ越エテ洋中孤立ノ絶島ニ遊ビ山河ヲ跋涉
シテ未タ曾テ聞知セザルノ蠻國ヲ經歷シ鬱葱ナル森林ヲ
過キ渺茫タル曠原ニ來リテ其地ノ人民ヲ視察セシモ各皆
某ノ宗教ヲ有シテ共ニ祈禱獻祭ノ儀式アルヲ認メタルニ
アラズヤ是乃萬民ガ有スル所ノ宗教念ノ外ニ顯出シタル
モノナリ

往昔一學士其著書ニ書ノ曰ク某人ハ宗教ヲ有セズ某民ハ

古今ノ民
皆宗教ヲ
有ス

神ヲ信ゼズト嗚呼是皮相ノ見ヲラズヤ何トナレバ之ヲ史
乘ニ徵スルニ其謂フ所ノ某民ハ皆神ヲ信シ宗教ヲ有スル
ノ民ナルヲ以テナリ是畢竟夫ノ學士ガ善ク某人民ノ風俗
人情ヲ熟察セザルノ致ス所ノミ蓋某ノ人民ニハ各自己ノ
神アリ自己ノ教アリテ之ヲ拜シ之ヲ奉ズルモ學士ノ信ズ
ル所ノ神ヲ修ゼザルガ爲メ彼ノ人民ヲ嫌惡スルノ餘皮相
ノ見ヲ下シタルニ過キザルナリシセロハガルル人ヲ指シ
宗教ヲ奉ゼザルノ人民ト呼ブト雖後世ガルル人ノ風俗
人情ヲ詳察スルニ及テ其神ヲ信シ宗教ヲ有スルト判然タ
リシニ非ズヤ名哲ソクテラスノ如キハ當時無神者ト呼バ
レ無宗教者ト稱セラレタルモソクテラス固ヨリ神ヲ信ゼ
ザルニアラズ又宗教ヲ有セザルニアラズ唯當時希臘人ガ
奉スル所ノ邪神ヲ信ゼズ又多神教ヲ奉ゼザルノミ

近世ニ至リ佛ノエンシタロバダストシテ歐米ノ學士モ亦往々蠻民ニ宗教ナク僧侶ナキヲ指示シテ宗教固有ノ說ヲ論破セント試タリト雖亦誤謬ノ管見タルヲ免レズ是其說ノ事實ト相反スルガ故ナリト交際ヲ篤ウシ其風俗ヲ熟察スルニ及ビテハ嚮キニ宗教ナク僧侶ナシト呼稱セラレタル蠻民モ猶其宗教ヲ有セシト曉然明白トナレリ是彼ノ人民ハ固ヨリ宗教ト敬神ノ儀トヲ有スト雖白人ヲ嫌惡シテ其觀察ヲ避ケ之ヲレテ宗教上ノ禮儀ヲ視ルノ手段ナカラシメ或ハ宗教ヲ有スレド儼然タル奉神禮アラザルヲ因テ學者ノ誤認ヲ招キタルニ過ギザルノミ假ニ一步ヲ讓リテ千百ノ人民中一二ノ無宗教者アリトスルモ之ヲ以テ宗教心固有ノ雜說ヲ破ル可カラズ猶世ニ白痴ノ人アルヲ以テ全人間ヲ智識ヲ具足セル活動物ニ非スト云フ能ハ

宗教ハ偶
然ニ現出
アセシ者ニ
アラズ

ザルカ如シ若啞者ヲ證トシテ人間ハ解語ノ者ニ非スト云ハ人誰レカ之ヲ信ヤン替者ヲ見テ人皆替者ナリト謂ハニ三尺ノ童子モ猶其愚ヲ笑ハンノミ凡ノ事條理ニ稱ハザルモノアリト雖之ヲ以テ條理ニ非スト云フ可カラザルナリ抑宗教上ノ智覺及其儀式ニ至リテハ則開化ノ進度ニ應ジ或ハ風俗ノ醜美ニ隨ヒ或ハ其他ノ故ニヨリテ萬國萬民彼此ノ差異不同ヲ免ル能ハズト雖其神ヲ信ジ堂ヲ建テ獻祭祈禱ヲナスノ精神ニ至リテハ萬國萬民共ニ一轍ニ出デハ萬世不易ナルモノナリ則必ズ常ニ世ニ活在シテ毫厘モ減損スルアルナク或ハ消滅スルコトアルナシ此理ヲ推考スレバ宗教ナルモノハ彼此ノ境遇事項ニヨリ偶然世界ニ現出セシ者ニ非ズシテ人間ノ生命ト偕ニ必ズ無カルベカラ

ザルモノナリ語ヲ易ヘテ之ヲ云ハヤ人間ハ一般ナル固有ノ宗教念ヲ具フルモノナリ然ルニ此ノ見易キ自然ノ道理ヲ見ル能ハズシテ宗教偶然顯出論ヲ主唱スルノ學士アリ豈ニ誤ラズヤ

宗教偶然顯出論者ノ説ニ曰ク宗教ナル者ハ掌理者及僧侶巫史ガ神ノ名ニ藉リテ一ハ草味野蠻ノ民ヲ制シ一ハ自己ノ利益ヲ領センガ爲ニ想出セシ者ナリト是古代學士ノ常ニ主張セシ所ニシテ其説庸淺後世復タ此如キ謬見ヲ狹持スルモノナカリシニ怪イ哉十八世紀ノ末ニ至リテ佛ノ「エソシクロペダスト」此説ヲ再唱セリ其趣旨本ト辨ズルニ足ラズト雖輒近我邦ノ人士ガ宗教ノ事ニ關シ歐米學者ノ迷謬ニ靡從シテ其謬ニ倣フ者比々皆是ナルヲ以テ亦之ヲ辨ズルノ不急無要ニ非ルヲ信ズ蓋迷謬除カズシハ眞理明ナ

宗教ハ僧侶巫史ノ想出セシ者ニアラズ

宗教ハ掌理者ノ想出セシ者ニアラズ

ラザレバナリ

宗教ハ僧侶巫史ノ想出セルモノナリトハ奚ツ其説ノ倒ナルヤ僧侶ハ宗教ノ役者ナリ巫史ハ宗教ヲ奉ズル者ナリ國家アリ而シテ後有司アリ主人アリ而シテ後僕婢アリ宗教アラズンヤ何ツ僧侶巫史ノアルアラソ宗教ハ僧侶巫史ノ想出ニアラズシテ僧侶巫史ノアルハ則宗教アルヲ明證スルナリ今古代ノ史ヲ緝閱スルニ宗教上ノ儀式ナク僧侶モナキノ人民ハアレモ宗教アラザルノ俗姓ハ未ダ曾テ之ヲ見ザルナリ(但當時ハ家主族長自ラ巫史ノ事ヲ行ヘリ)且之ヲ現今ニ徴スルモ宗教上ノ覺得ヲ有シテ宗教上ノ儀式ト僧侶巫史トヲ有スル者ノ多キヲ常ニ見ルニアラズヤ

掌理者ガ人民ノ暴悍ヲ懾服制御スルガ爲ニ神ノ名ヲ藉リテ宗教ヲ想出ストノ説ニ至リテハ其誤尤モ大ナリ蓋實地

ト大ニ相反スルヲ以テナリ今又之ヲ古史ニ徴スルニ宗教ハ常ニ政事ノ以前ニ在リ即チ某々ノ人民ガ未タ一個ノ社會ヲ成立シ政事ヲ組織セザルニ先チテ已ニ某々ノ鬼神ヲ信ズルアリ掌理者ハ只其宗教ヲ有スル所ノ人民ニ臨ミテ政令ヲ施スノミ政令ヲ行フガ爲ニ宗教ヲ想出シタルニアラザルナリ且吾人ノ智慧ヲ以テ之ヲ裁度スルモ宗教ノ念ノ人性ニ固有スルニ非ルヨリハ焉ヲ掌理者ノ腦裡ニ人民ヲ治ムルニ宗教ヲ以テセントスルノ意ノ生ズルヲ得ンヤ人民先ツ某々ノ鬼神ヲ信仰シテ之ヲ敬畏スルニ非ズンバ掌理者焉ヲ神ノ名ニ托シテ人民ヲ懾服スルヲ得ンヤ若シ人ヲ懾服セントシテ反テ其知ヲザル所長レザル所ヲ以テスルハ猶木ニ縁リテ魚ヲ求ムルガ如シ

又宗教ハ人民ノ愚昧ニ源由スト言フ者アリ其説ニ曰ク曠

宗教ハ人
民無智ノ
結果ニア
ラズ

古草昧ノ民ハ天地ニ俯仰シ而間有ル所ノ萬物ヲ觀察シ來リ其萬殊ノ現象ニヨリテ或ハ其心腸ヲ驚カシ或ハ其神魂ヲ快クスルモ其現象ノ自ラ定法アリテ然ルヲ知ラザルヲ以テ之ヲ靈能至上者ノ所爲トナシテ徒ニ之ヲ敬畏シ之ニ崇拜シ祈禱以テ其歡ヲ取リ獻祭以テ其怒ヲ息メントス此レ信仰心ノ興發スル所以宗教ノ現出スル根源ナリ故ニ宗教ナル者ハ幼稚曠昧ナル人民ノ虛想妄信ニ過ギズト此又古代學士ノ説ニヨルモノニシテ輒近唯物論者再ヒ此説ヲ張皇シ有名ナルフナト共ニ颺言シテ曰ク宗教ハ曠古草昧ノ民ノ已チ環周スル萬物ヨリ受ル所ノ感覺ノ結果ナリト嗚呼此レ其未チ探リ未タ其本チ知ラザルナリ曠古ノ民如何ニ蠢愚如何ニ野蠻ナルモ信仰心即宗教ノ念ノ固有スルニ非ルヨリハ如何ク萬物ノ現象ヲ以テ直ニ之ヲ鬼神ト

レ以テ之ヲ信仰崇敬モシテ古代ノ民其智昏昧シテ迷惑ニ
陥リ其心荒蕪シテ肉慾ニ荒ミ久ク天地ノ主宰タル眞神ヲ
忘ルト雖宗教ノ念ハ依然トシテ人性ノ固有タルヲ失ハズ
常ニ沛然トシテ外ニ流溢シ復防シ能ハザルモノアルナリ
然リ而シテ俯仰天地ヲ觀察スルニ森羅萬象ノ整然タル一ト
シテ恒規定律ノアラザルナク其現象ノ出沒變化殆ト端倪
スベカラザルガ故誠ニ説ク者ノ言ノ如ク神魂爲ニ快ク心
腸之ニ因テ驚クモ其理由ノ如何ニ至リテハ蠢愚ノ民ハ固
ヨリ曉然タル能ハズ惟之ヲ全知全能ナル神靈ノ力ノ發現
ナリトシテ萬物ノ力ト顯見トヲ以テ直ニ之ヲ鬼神視スル
ニ至レルノミ故ニ野蠻ノ民ハ太陽ヲ見テ皆ニ光熱ヲ發ス
ルノ一大輪丸ト爲スノミナラズシテ之ヲ慈悲恩澤ヲ顯ハ
スノ善神トナシ迅雷ノ轟然トシテ天ニ震ヒ疾風ノ蓬然ト

シテ地ニ起ルアレハ雷ニ之ヲ怖ルノミナラズシテ威嚴ナ
ル神靈ノ怒詭スル所トナス其此ノ如キ所以ノ者ハ即造物
主ガ始メ人ヲ造成スルニ先ツ宗教ノ念ヲ以テ人心ニ嘘入
セシテ明顯スルモノニシテ決シテ偶然ニ非ルヲ證スルナ
リ由是觀之宗教上ノ迷ト宗教ノ愚ハ不文野蠻ノ結果ナル
ト勿論ナリト雖其無智曠昧ヲ以テ神ヲ信仰スルノ信取モ
直サズ宗教現出ノ原因トナスガ如キハ豈全ク本末ヲ辨ゼ
ザルノ致ス所ニアラズヤ

斯ク論ズレハ或ハ之ヲ難ズル者アラシク何ノ證アリテ
宗教ハ曠昧ノ結果ニ非ズトシ万物ノ力ト法トヲ知ラザル
ノ効驗ニ非ズト云フヤト曰ク万物ノ力ト法トヲ知ル所ノ
知識ハ吾人が宗教ニ於テ得ル所ノ知識ト大ニ其旨趣ヲ異
ニス何トナレハ格物究理ハ如何ニ開達ノ極點ニ至ルモ有

宗教上ノ
覺得ハ格
物ノ理ト
大ニ其旨
趣ヲ異ニ
ス

形世界ノ定法現象ヲ探究スルニ止リテ決シテ有形ノ範圍
ヲ脱スル能ハザルナリ然リ而シテ吾人が宗教上ニ於テ覺
得セント欲スルモノハ無形世界即有神世界ノ問題ノ辨解
ナリ万有事物ノ本源ノ問題世界人間ノ現出及ヒ目的ニ關
スルノ問題善惡是非ニ係ルノ問題總ノ德義上ニ於ケルノ
問題靈界ニ於ケルノ問題ノ辨解ナリ此ノ如キ者ハ獨リ之
ヲ宗教ニ得ベクシテ格物究理ノ能ク辨ズル所ニ非ザルヤ
知ルベシ且ヤ万物ノ定法ハ吾人ノ靈魂上ニ近接ノ干係ヲ
有セザル者ナリ即宗教上ノ鑑戒法律ノ吾人ノ心志行爲ニ
於テ有スルガ如クナル重大活潑ノ關係ヲ有セザルナリ言
ヲ易ヘテ之ヲ言ヘバ万物ノ法ハ縱令法中ノ不變不易ナル
モノニモセヨ吾人ノ心情ニ取リテハ不活物タリ死物タル
ヲ免レズ安ツ吾人が心志ノ基礎トナリ行爲ノ柱石トナル

ヲ得ンヤ然ラバ則唯物論者ノ「人智ノ開達スルニ從ヒ万物
ノカト法トヲ識得スルニヨリテ宗教ハ自ラ亡滅セザルヲ
得ズト」イヘル説ハ自ラ畫餅ニ屬セザルヲ得ズ熟々古今ノ
史ヲ參照スルニ獨リ無學不文曠味野蠻ノ民ノミ宗教ヲ有
スルニ非ズシテ文明ノ世界ニ冠絶シ開化ノ万國ニ特秀ス
ル歐米諸國ノ人民モ亦皆之ヲ有スルナリ且其人文開明ノ
進度ニ隨ヒテ遵奉スル所ノ宗教ニ彼此不同アルハ又免レ
難キ所ニシテ文明高等開化超邁ナル人民ノ遵奉スル所ノ
宗教ハ自ラ高尚ナリ自ラ完全ナリ自ラ純然ナリ一國人民
ニ取リテモ亦此ノ如ク一個一人ニ取リテモ亦此ノ如シニ
ユートンケプレルリノネイノ如キヲ視ヨ彼ハ其平生如何
ナル人物ニシテ格物究理ノ學ニ因リ如何ナル結果ヲ得タ
リシヤユートンガ神ノ名ヲ稱スルニ當リテ必ス帽ヲ脱セ

格物ノ大
家能ク眞
神ヲ認識
ス

十四
シハ人ノ能ク知ル所ナリ其廣大ノ發現ヲ爲シテ如何ナル
結果ヲ得タリシヤ其著名ナル墓碑ヲ見テ之ヲ知ルベシ日
ク「彼ハ其理學ニ於テ全能神ノ威光ヲ讚美シ其生命(或ハ行
爲)ヲ以テ福音經ノ潔白ヲ顯示セリト」ケブレルガ「世界ノ一
致」ト題セル著書ノ結末ニ云ルアリ日ク「造成者我が神ヤ爾
ニ感謝ス爾ハ爾ノ造物ヲ以テ我ヲ欣喜セシメ爾ノ手ノ造
工ニ由テ我ヲ踊躍セシメタリ我レ我が有限ノ力ヲ盡シテ
無限ナル爾ノ造工ノ美ヲ人間ニ見示セリ若我爾ニ不當ノ
言ヲ發セシムアラバ願クハ憐ヲ垂レテ我ヲ宥セヨト」リ
ネイモ亦「自然ノ法則」ト題スル書中ニ造物者世界ノ主宰タ
ル神ノ威光智慧ヲ讚頌セリ此ノ如ク博物學士等ハ万物ノ
法ヲ探求スルニ從ヒテ愈造物者ヲ崇敬スルヲ知リ万物ノ
力ヲ覺得スルニヨリテ敬虔廉潔ノ人トナルヲ視バ愈夫ノ

有名ナル英國ノ哲家ベーンノ言ノ確實眞正ナルヲ知ル
ベシ日ク「淺薄浮蕩ノ學ハ人ヲ無神ニ引キ完全具備ノ學ハ
人ヲ宗教ニ導クト」

宗教ハ人間ノ固有スル所ノ者ニシテ吾人ハ此ノ固有ノ念
アルニヨリ天性ニ眞理ヲ尋テ善義ト幸福トニ向フハ取モ
直サズ萬有ノ源タル無始無終ノ神ニ向フナリ何トナレバ
神ハ眞理ノ源善義ノ本幸福ノ泉ナレバナリ然リ而シテ吾
人ノ靈魂ガ此ノ如ク無始無終者ニ向往スルノ切ナルヲ見
ルニ此ノ二ノ者ノ間ニハ必ズ永久ノ關係アラザルベカラ
ザルナリ是古今萬民ノ證スル所ナリ已ニ此ノ永久ノ關係
アリ不可分離ノ結合アルヲ以テ之ヲ見ルニ吾人ノ靈魂ハ
物質ヨリ出ル者ニ非ズ又一時現世ニ顯レ出テ肉身ト共ニ
飄散シタ鳥有ニ歸スル者ニアラザルナリ則無始無終ナル

神ノ存在
ト靈魂ハ
不死亡ノ
宗死ノ根
源ナリ

神ノ造工ニシテ有神不死ノ者タルヲ知ルベキナリ夫レ此ノ如ク宗教ハ一方ヨリハ無始無終者タル神ノ存在ヲ指示シ又一方ヨリハ人間ノ靈魂ノ有神不死ナルヲ顯示ス此ノ二ノ真理ハ宗教ノ根源ナリ宗教ノ基礎柱石ナリ若シ此ノ二ノ真理ナカリセバ宗教ハ一日モ存在スルヲ能ハザルナリ此ノ真理ヲ考明セズシテ宗教ヲ談ゼントスルハ猶屋ヲ砂上ニ建ツルガ如シ故ニ吾人ハ是ヨリ序ヲ次テ以テ此ノ真理ノ真理タル所以ヲ闡明セントス

世界ノ造成者タル神ノ存在ヲ言フニハ其證許多アリ現時露國モスコフ府ノ府主教神學博士マカリイ氏ハ此ノ證ヲ分テ四トナス一ニ曰ク史傳ノ證二ニ曰ク萬物ノ證三ニ曰ク靈魂上ノ證四ニ曰ク度格ナル行爲ノ證是ナリ吾人ハ氏ノ論述スル所ニ從ヒ萬有ノ神ノ存在ヲ證スルヲ左ノ如ク

万国史傳
ノ合同ナ
以テ神ノ
存在ヲ證

吾人古今万国ノ宗教ヲ觀察スルニ或ハ善惡ノ二神ヲ信認スルアリ或ハ人ヲ尊崇シテ神トスルアリ或ハ萬物ノ力ト現象トヲ以テ神トスルアリ日月星辰ヲ以テ神トスルアリ名山大川ヲ以テ神トスルアリ或ハ奇樹怪石ヲ以テ神トシ或ハ禽獸蟲魚ヲ以テ神トスルアリテ國皆其教ヲ異ニシ民各其信ズル所ヲ同ウセザルモノ、如シ夫レ此ノ如ク其奉ズル所ノ教ニ不同アリ其信ズル所ノ神ニ殊異ナルアリト雖人間ヨリ最モ至尊無上ナルノ靈能者ヲ信仰敬畏崇拜スルノ一點ニ至リテハ諸宗教ノ一般ナル所万国万民ノ同ウスル所ナリ蓋此レ惟一ノ上帝造物主ガ自ラ人ニ賦與シタル所ノ念ナリ故ニ至上ナル神ヲ崇尊スルヲハ多神教ニ於テモ間之アルヲ見ルナリ而シテ多神教ヲ奉ズルハ人民ハ此人至上ナル神ヲ以テ自ラ創思セシ所ノ諸神ノ上ニ置キ

之ヲ諸神ノ父ノ如ク主ノ如クニ想像シタリ希臘ノナルプ
 ーノ詩ニ曰ク「ゼウスハ乃首者ナリ乃末者ナリ元始ナリ
 中心ナリ万物皆之ヨリ發生ス」又ヘシテ「ホメーロヒシ
 ダルエウリヒドエスヒルソフケル等ノ騷客吟人ハ皆諸
 ノ神ト入ヲ造成者タル至上ノ神」ヲ信認シタリ「エウ
 エス」大靈ノ篆額ニ曰ク「神ハ靈ナリ世界ノ造成者ナリ靈
 物ノ活原素ナリ宇宙ノ全能者ナリ」ト印度人ハ「ブ
 ヲ最上無原永遠ノ者ト爲セリ其ガソトシ經ニ曰ク「全能者
 ハ諸神ノ神ナリ」ト漢人ハ古ヨリ皇天上帝ヲ祭ルヲ以テ無
 上ノ典ト爲シ我邦人モ亦天ノ御中主ヲ以テ至尊無比ノ神
 ト爲セリ「西藏ノ教理ニ曰ク「自己ニヨリテ居ル所ノ神ハ万
 物ヲ造成セリ」ト「スルヤ」人ハ「タルムズ」及「ヒアリヤ」神
 ノ上ニ「永久無量ノ神」ヲ尊崇シエテ「ヒヤ」人ハ「万有ノ原因

タル不死ノ神」ヲ信認シカ所、民ハ「テイタ」ト神ハ諸神之本
 源ナリ」ト云フ「スカンチナ」ヒヤ人ノ信仰セシ神ハ「チ
 シン」諸神ノ父ニ「メ」萬物之ヲ稽首スト云ヘリ「ア
 ヌ」ヤノ土人ハ各種々ノ名稱ヲ賦シテ「大ナル靈」ヲ敬畏崇
 拜セリ昔時ノ賢人君子ニ至テモ亦各信ズル所アリ哲學者
 「ヒサゴ」ルゼン「ン」ク「ラ」ア「ス」ア「ト」ン「ア」リス「ト」
 ス「トル」孔丘ヲ始トシテ「ハリス」ト「ス」教ノ大敵タリ「ツ
 ス」ト「ル」ノ「マ」タ「ム」ニ至ル迄亦皆萬有ノ原因タル惟
 神アルヲ公認セザルヲ「夫レ」此ノ如ク宇宙ヲ創造經紀ス
 ル至上者存在ノ眞理ハ理學者ノ信ズル所異教人ノ證スル
 所ニ「テ」テ所謂天下ノ公論ナリ故ニ「シ」セ「ロ」氏曾テ言ヘル
 「リ」曰ク「何ノ民ト雖宗教ヲ有セザルハナシ萬國萬民學術巧
 藝ヲ知ラザルモ自ラ靈神ノ在ル有ルヲ知ル」ト歴史ヲ以テ

史傳ト聖
經トノ吻
合チ以テ
神ノ存在
ヲ證ス

證スル是其一ナリ
又史乘ニ就テ之ヲ檢スルニ太古ノ時神自ラ人間ニ顯レテ
人ト與ニ語リ人ニ其眞理ヲ明シ信教ヲ諭示ス云々ノ實蹟
ヲ傳ヘリ猶太國ノ律法者モイハ此ヲ其書(舊約ノ聖經)
ニ載セテ以テ此事ノ眞實無妄ナルヲ明證セリ余輩古今ノ
宗教史ヲ參照スルニ卷ヲ開ケテ首ニ必ズ此等ノ事蹟ヲ記
載セザルハナシ豈奇ナラズヤ此ノ如ク世界一般萬國合同
ナル史傳ハ何處ヨリ來リシヤ聖經ノ吾人ニ教フルガ如ク
太初誠ニ此ノ眞蹟アルニ非ルヨリハ曷ヲ斯ノ如ク同一轍
ニ出ルヲ得シヤ古今人類ノ神ノ存在ヲ證スル此ノ如ク明
ニシテ掩フ能ハザルモノアリ歴史ヲ以テ證スル是其二ナ
リ
余輩又舊新約ノ兩經書ヲ取リテ之ヲ精閱スルニ其中ニ許

奇蹟ヲ以
テ神ノ存
在ヲ證ス

万有事物
ノ根源ヲ
論シテ神
ノ存在ヲ
證ス

多ノ奇蹟休徵アルヲ見ル特ニ新約教會創立ノ時ニ於テ多
シトス此ノ奇蹟ノ眞實ナルト休徵ノ不僞無妄ナルトハ之
ヲ歴史ニ徵スルモノ之ヲ理學ニ參スルモノ一點ノ疑ヲ容ル可
カラザルナリ而テ此ノ奇蹟休徵タルヤ万物ノ力ト法トニ
超絶スルモノニテ万物ノ力ト法トノ能ク爲シ得ル所ノ者
ニ非ルナリ然ラバ則万物ノ法ニ超エ万物ノ力ニ拔テ、万
物ノ上ニ大能全權ヲ有ツノ元素即チ万物ノ造成者タリ世
界ノ主宰タル全能全知至尊無上ノ神明アルヤ昭々トシテ
明ナリ歴史ヲ以テ證スル是其三ナリ
以上已ニ歴史ヲ以テ神ノ存在ヲ證セシガ是ヨリ又世界ノ
存在ト成立トヲ觀察シ以テ神ノ存在ヲ證セント欲ス
凡ソ物必ズ始アリ必ズ源アリ万物一トシテ存在チ他ニ藉
ラザルハナシ世界ハ無數ノ万物ヨリ成立スル者ナリ故チ

以テ亦必ズ其創造ノ根源アラザルベカラズ蓋因ナクシテ
 果アルノ理ハ決シテ之無ケレバナリ然リ而シテ世界存在ノ
 根源ナル者ハ獨立自在無限不易ノ者ニアラザルベカラズ
 獨立自有ニ非ル者ハ他ニヨリテ現出セシ者ナリ他ニヨリ
 テ現出セシ者ハ万物ヲ創造スル能ハズ限量アリ變易アル
 者ハ純全ニ非ズ純全ニアラザルモノハ世界存在ノ根源ト
 ナル能ハザルナリ然ラバ則何ヲ以テ世界存在ノ根源トナ
 スヤ物体ヲ以テスルカ曰ク不可ナリ何トナレバ物体ハ單
 一不分離ノ者ニアラズシテ許多ノ元素ヨリ成立スルモノ
 ナリ故テ以テ自ラ不活不動ノ物ナリ分析スルハキ者ナリ破
 壞スル者ナリ不活不動分析破壊ニ屬スル者ハ必ズ變易アリ
 究盡アリテ亡滅ヲ免レズ是固ヨリ當然ノ理ナリ夫レ物
 体ノ性タル不易ナル者ニ非ラズ無限ナル者ニ非ズ又獨立

自有ナル者ニ非ルト斯ノ如シ安ソ世界存在ノ根源トナル
 テ得ヤ然ラバ則世界存在ノ根源ハ之ヲ靈神世界ニ求メ
 テ可ナルカ曰ク不可ナリ夫レ靈神世界ニ屬スルモノハ有
 形物ニ超越スルヲ方々ナリト雖亦無限不易獨立自有ノ神
 質ヲ有セザルナリ何トナレバ善神モ惡神モ吾人ノ靈魂モ
 等ク靈神世界ノ一物ナリ一部分ナリ已ニ一物ナリ一部分
 ナレバ其本性ヤ智力ヤ行爲ヤ固ヨリ自ラ限量アリ固ヨリ
 自ラ變易アリテ獨立ナラズ自有ナラズ即世界存在ノ根源
 トナルコト能ハス夫レ斯ノ如ク有形世界ノ者モ無形世界ノ
 者モ皆悉ク變易アリ限量アリ永遠ヨリ存スルコトアラス必
 ズ之ガ元始アリテ其存在ハ獨立自有ノ者ヨリ得タリシナ
 リ是猶甲ノ物ハ乙ヨリ出テ乙ハ丙、丙ハ丁、丁ハ必ズ自己ニ
 ヲリテ有ル所ノ者ヨリ出テザルベカラザルガ如シ今万物

一 化成ノ源因ヲ探リ世界ノ在存理由ヲ尋チントシテ万物
 ハ生々不息ナリ始初モナク源因モナク互古自然ニシテ存
 スルコト然リトハ人自ラモ之ヲ言フテ得ズ他モ亦必ズ之ヲ
 信ゼズ獨立自有ノ者ヲ以テ万物ノ根源ト爲サバルベカラ
 ザルニ至ルベシ是吾人が天ニ稟ル所ノ聰慧不昧ナル靈魂
 以テ催促ニシテ天ヲ極メテ已ムナキモノナリ見ルベシ世界
 ノ前物体ノ外必ズ獨立自有ニシテ生命ハ自己ニ之ヲ有シ
 不變無限ニシテ無テ以テ有ト爲ラシムル者ノ永遠ニ現存
 スルアリ以テ世界ヲ造成セシメテ章々タルヲ而シテ此ノ
 如ク純全ナル者ハ造物主神ノ外復誰カアラザリヤダマスキ
 ノ聖イオナアン曰ク世界ノ現有物ハ造ヲ受ケタル者ナリ已
 ニ造ヲ受ケタルガ故ニ其變易スルコト疑ナク何トナレバ存
 在ヲ變易ニ始メシ者ハ變易ニ働キテ變易ニ終ルナリ
 (中總)

テ吾人ノ五官ニ感觸スルモノ、ミナラズ靈界ノ現有物(天
使魔鬼靈魂)モ亦變易スルヲ免レズ靈界ノ物ハ其自由ニヨ
リ或ハ善ニ進ミ或ハ惡ニ陷ルニヨリテ自ラ變易シ有形ノ
物ハ生出破壊増加減少スルニヨリテ變易ス而シテ變易ス
ルモノハ必ず造成セラレ造成セラレタルモノハ必ず造成
セラレザル者ニ造成セラレタルナリ斯ノ如ク造物者ハ造
成セラレザル者即變易セザル者ナラザルベカラズ而シテ
此ノ變易セザル者ハ神ニ非ズシテ何アヤト萬物ヲ以テ神
ノ存在ヲ證スル是其一ナリ
物体ノ習慣性ハ格物究理ノ定則ニシテ寂然靜止スルハ物
ノ性ナリ運動ハ他力ニ藉ルモノニシテ決シテ自己ノ力ニ
ヨルニアラズ故ニ物ノ寂然靜止スル者ハ他ニ之ヲ撓マ
ス者ナクレバ常ニ靜定シテ搖カズ又物ノ一次運動ヲ起ス

アル時ハ他力ノ之ニ抗スルナキノ間ハ不斷直線ニ進行シ
テ自ラ止ルコト能ハザルナリ若物体ハ習慣性ヲ有セズ運動
ハ物ノ性ナラシムルハ物体ハ自ラ動キ自ラ止ルコト得ルノ
理ナルニ退キテ其實地ヲ觀察スルニ大ニ然ラス夫レ吾人
ノ棲息スル地球ト諸ノ天象トハ其軸ヲ回轉シ其軌道ヲ循
環スルコト數千年前ノ古ニ異ルナク常ニ運轉シテ須臾クモ
靜止スルコトナシ此レ其自ラ動キ自ラ止ルヲ得ベキ力ヲ有
セザルニ因ルナリ然ラバ則物体ノ外ニ全能自有ノ力アリ
テ世界ニ運動力ヲ賦與セシメ知ルベシ余之ヲソクテラスニ
聞ク曰ク爾ノ精神爾ノ身体ト偕ニ在ル間ハ其欲スル所ニ
任セテ自体ヲ左右ス斯ノ如ク万有ノ間ニ至上ノ智慧アリ
巳ノ旨ニ循テ此ノ極大巧器(天地)ヲ管理スルヲ知ルベシ元
始人ヲ創造セシ神ハ乃知ラザル所ナク且ツ萬物ヲ司宰ス

ト世界ハ無數ノ輪軸機關ノ互ニ相資ク相藉ルヲ以テ運轉
循環スト雖其運轉ノ首源首因ハ萬物ノ力ノ相助アルニ非
ズシテ萬物ヲ造成セシ全能者ノ掌中ニ在ルナリ猶測時器
ノ大小ノ輪軸アリ輪齒相推シテ運轉ヲ節シ以テ其用ヲ爲
スト雖人手ヲ藉リテ始テ運轉スルガ如シ歐米ノ博物學士
等焦思苦慮シテ世界運轉ノ源因ヲ探ラントシタルニ此ガ
首源首因タル造物者ヲ認メザレバ世界ノ運轉ハ秘密中ノ
秘密ナリト云フニ止マレリ吾人實ニリツコトガ神ハ世界
ヲ明ニシ而シテ世界ハ神ヲ證シ無神論者ハ現有ノ神ヲ無
ミストトノ格言ヲ讚美セザルヲ得ザルナリ萬物ヲ以テ神ハ
存在ヲ證スル是其ニナリ
世界ノ運轉ハ右ニ陳述シタルガ如シ而シテ其運轉タル井然
トシテ定規アリ其組織タル齊整ナリ恰當ナリ其現象タル

奇妙大なる麗朗ナリ請フ仰テ天ノ高キヲ視キ日月星辰ノ炳
 炳爛爛タル開闢已來今ヨリ七千餘年ヨリ至ルト雖其運轉循環
 スルヲ毫厘モ爽ハズ四季序アリ寒暑紊レズ晝ハ太陽ノ照
 臨スルアリ宵ハ星宿ノ森列スルアリ人物因テ以テ生テ保
 ツ又俯シテ地ノ全面夫瞰ヨ山海ノ萬物或或タリ杉々タリ
 陸ハ以テ人物ヲ載セ海ハ以テ魚鼈ヲ生シ船舶ヲ走ス山
 嶽泉ヲ湧カシ平原川ヲ流シ百物因テ以テ繁生ス加之空氣
 光輝食物ノ性質モ亦一トシテ人物身体ノ組織ニ適合セザ
 ルオシ嗚呼是何等ノ恰當ゾ嗚呼是何等ノ齊整ゾ手筆ノ能
 ク描寫シ得ル所ハ非ザルナリ(詩篇百四章參看)
 茫々タル蒼穹ニ輪轉スルノ巨体ヨリ翹々タル樹葉ニ匍匐
 スルノ昆蟲ニ至ルマテ最奇極妙ノ組織ヲ有シ各相稱スル
 位置ヲ占メ極大者モ至微者モ各互ニ恰當密接ナリ

係有シ一定不易之法規ニ管轄セテ相資ク相藉リテ以
テ世界人完全ナル一大機器ヲ成ス嗚呼斯ノ如キ齊整麗朗
ノ天地ニシテ其之ヲ攝理スルノ大主宰ナクシテ可オラン
ヤ二千年前ノ大賢言ヘルアリ曰ク余ガ言語動作ノ順序ア
ルヲ見テ爾ハ余ニ聰明ノ靈アルヲ知ルナルベシ斯ノ如ク
世界ノ秩序アルヲ見テ最高ナル智慧アルヲ知レト至智全
能ノ者ニ非ラザレバ宇宙ヲ創造經營スル能ハズ至智者ニ
非レバ齊々各々秩序ヲ定メ相容レズ相合ハザルノ火水氣
土ヲ以テ合セテ一体ヲ組織スル能ハズ全能者ニ非レバ此
ノ次序ヲ保テ火水氣土ヲ永遠離レザルニ護理スル能ハザ
ルナリ而シテ此ノ至智至能ナル者ハ神乃造物主ニ非ズシ
テ何ゾヤ余輩ハ自己ヲ無トセズシテ世界ノ組織成立ニ於
テ已テ顯ハスノ至上ノ智ヲ無トス大スヲ能ハザルナリ萬物

靈魂ヲ以テ
神ノ存ス
在テ證ス

ヲ以テ神ノ存在ニ證スル是其三ナリ
「我ニカカレト曰ク」我ニ思考ス故ニ我ニ存在ス
「學者以テ千古ノ至言トナス余輩ハ將ニ言ハントス我ニ思考ス故ニ我ニ靈魂アリト余輩沈思默想シテ深ク自ラ曰ク願ルニ内ニ智意情ノ三力ヲ具備スル非物質ナルモノ即靈魂ノ有ルヲ覺ユルナリ人若シ至愚白痴ニ非ルヨリハ之ヲ無トスル者アラザルベシ自己ノ内ニ存在スルノ靈魂ヲ無トスルハ猶目前ニ現存スルノ萬物ヲ無トスルガ如シ然リ而シテ我ガ靈魂ヲ形軀内ニ留ムルト否ラザルトハ我ノ關スル所ニ非ズ蓋此ソ靈魂ニ我自ラ之ヲ曰ク賦與セシニ非ズ至上全能ノ根源アリテ我ガ靈魂ヲ造成シ而シテ我ハ死生之ニ係ルニヨル此ハ根源ノ如何ナル者タルハ縱令我之ヲ詳悉スル能ハザルモ其物質ニ非ルヲ知ルヤ確タルナリ物質ハ物質ト黑白ノ

人心ニ絶
待ノ思想
アルヲ以テ
神ノ存ス
在テ證ス

差異アル靈魂ヲ造成スル能ハザルハ言フ迄モナク自己ト同等同類ノ者ヲモ造爲スル能ハザルナリ是ニ由テ之ヲ觀ルニ至上全能有神無形不可見ノ造成者即神アリテ我ガ聰明ノ靈魂ヲ造成セシヤ章々トシテ疑フ可ラザルナリ故ニ余輩ハ堅信確認明言シテ曰ク我ニ靈魂アリ故ニ神存在スト若シ其レ更ニ一步ヲ進メテ深ク靈魂ノ内部ニ入り其智意情ノ三力ニ就キ細カニ之ガ考察ヲ下セバ神ノ存在ヲ證スルモノ更ニ又三アリ請フ之ヲ陳セン
第一余輩自己ノ智慧ヲ觀察シテ深ク之ヲ探求スルニ純全無限ナルモノノ思想アルヲ覺ユ吾人常ニ口ヲ開テ不完全有限等ノ言ヲ爲スハ是完全無限ノ者アルヲ想像スルヨリ生ズルノ言ニシテ此完全無限ノ者ハ宙吾人ノ思想中ニ在ルノミナラズ必ズ現ニ存在スルニ相違ナカルベシ若シ純

全無限ノ者ハ現存スルコトナクバ安ク此ノ思想ノ吾人ノ腦
 裏ニ發生シ來ルノ理アラシヤ抑吾人ハ直接間接ニ論ナク
 凡ソ存在セザル者ヲ思想スルコト能ハズ吾人が或ル者ヲ思
 想スルハ是其物ノ吾人ノ智慧ニ感觸セシニヨル(此レ真正
 現有ノ思想)否ヲザレバ種々ノ實物ヲ合セテ之ヲ一體トシ
 テ創思セシニヨル例之ハ獅体人頭馬尾鶯翼ノ一種特別ナ
 ル動物ヲ創思シテ之ヲ思想スルガ如シ(此不正虛妄ノ思想)
 由此觀之吾人ハ或ル者ヲ思フノ思想ヲ有ス而シテ吾人ヲ
 環圍スルノ現物ヨリ之ヲ收受スルニアラザレバ則是直接
 ニ或ル者ヨリ賦與セラレシナリ此レ真正現有ノ思想ナリ
 且ツ或ル者ハ必ラズ無形ニシテ見エザル者ナルハシ今夫
 レ吾人ハ純全無限ノ者ヲ思フノ思想ヲ有ス而シテ万物ハ
 之ヲ吾人ニ賦與スル能ハズ其故如何トナレバ前ニモ論述

セシガ如ク有形物ハ其力ト功用トニ論ナク悉ク皆限量アリ又究盡アルヲ以テ有神無限ノ者ヲ思フノ思想ヲ造爲スル能ハザルナリ猶小ハ大ヲ兼スル能ハズ一ノ中ニ百ヲ求ムル能ハザルガ如シ一ニ百ヲ得ストスルハ九十九ヲ無キ處ニ求ムルナリ是レ理ノアラザル所智者ノ爲ザル所ナリ又人自ラ此思想ヲ創思スル能ハズ若シ自ラ創思スルヲ得バ則人自ラ此ノ思想ノ起源ヲモ記憶シ得ベクシテ此思想ノ吾人が智慧開達ノ已前ニ在ルノ理ナカルベシ人類一般ノ思想トナルトモ亦必ズ能ハザルベキナリ然レモ此等ノ事實ト大ニ相齟齬セリ夫レ斯ノ如ク吾人モ吾人ヲ環圍スルノ万物モ無限者ヲ思フノ思想ヲ吾人が智慧ニ賦與スル能ハズシテ吾人ハ實ニ之ヲ有ス見ルベシ現ニ無限純全ナル者即吾人ヲ創造セシ神アリテ此ノ思想ヲ吾人ノ腦裡ニ嘘

入セシナ吾人ノ智覺未ダ開發セザルヤ神ヲ思想スルヲ了然タル能ハズト雖自然ニ神ニ向フノ念アリ而シテ智覺ノ漸ク開達スルニ隨ヒ此ノ思想ハ愈益明白トナルナリ故ニアンゼリム曰ク「我が主ヤ爾ハ實ニ存在スルモノナリ故ニ我等爾ノ無有ヲ想像スルダモ且能ハズ」トイウズチシアレキサントリヤノクリメントアルトリアン大ウシリイアレキサントリヤノキリールダマヌクノイナアソノ諸神師ハ皆神ヲ思想スルノ念ノ人間ニ固有ナルヲ公認シタリキ

第二證吾人ノ行爲ハ靈魂上ヨリ之ヲ論ズレバ前事前項ノ結果ニ非ズ偶然不慮ニ出ルニ非ズ乃我が自由ニ關係スルモノコシテ願欲希望ノ結果ナリ而シテ吾人某ノ事ヲ行ヘバ輒自然ニ喜悅快樂ヲ覺ヒ某ノ件ヲ爲セバ輒自然ニ歎歎慙愧ヲ覺ユ是其心中ニ一神法アリテ我が自由ナル志望行

良心ノ活
動ヲ以テ
神ノ存在
ヲ證ス

爲ニ分割ヲ定メ吾人ノ志行スル所其範圍ヲ出デザレバ則歡樂ヲ與ヘ其境界ヲ除ユレバ則懊悔ヲ與フルナリ是之ヲ德義法ト曰ヒ此ヲ知ル之ヲ良心ト曰フ德義法ハ善惡是非ヲ職別シテ吾人ニ教ヘ且促スニ正ヲ好ミ邪ヲ惡ミ善ヲ行ヒ惡ヲ除クヲ以テス良心ハ吾人ノ行爲ノ德義法ニ稱フト否トヲ觀察シ其善惡ノ如何ニ隨テ吾人ヲ褒貶黜陟スルナリ即我該法ニ適合スルノ事ヲ爲サバ他人如何ニ我ヲ誹謗貶黜スルモ心大ニ之ヲ娛ム之ニ反シテ不義不正ノ事ヲ行ヘバ他人ハ之ヲ知ラザルモ心中甚ダ傷ム故ニ方正實直ノ人ニハ心中自ラ一種獨到ノ眞樂アリテ罪惡性ト爲リシ人ハ心中必ズ自ラ訟フルナリ聖經ニ所謂爾之惡行自將責爾悖逆之事自將罰爾(耶利米書二)トハ之ヲ謂フナリ

夫レ此ノ法ハ何處ヨリ出デ來リシカ有形物ヨリ來リシカ

曰ク然ラズ何トナレバ萬物ハ自由ノ靈徳ヲ有セズ善惡是非ヲ識別スル能ハザレバナリ然ラバ則人間ヨリ出デシカ曰ク然ラズ何トナレバ良心ノ褒貶黜陟ハ少クモ吾人ノ意ニ關セザレバナリ我之ヲ賞セント欲スレバ良心ハ之ヲ許サズ我之ヲ罰セザラント欲スレバ良心ハ之ヲ聽カズ加之若徳義法ヲシテ人造人爲ノ法タラシムレバ早晚變易若クハ亡滅セザルヲ得ザルベキニ(人造ノモノ未ダ變易セザルノ前例ナシ)熟々徳義法ノ如何ヲ觀察スレバ時ノ古今ニ拘ラズ民ノ開否ヲ問ハズ隆然トシテ恒ニ人間ニ行ハレテ少クモ參差變易スルヲナキナリ蓋此万國万世ノ公法ニシテ永遠不滅ノ道理ナリシセロ曰ク「彼(永遠ノ眞理)ハ乃世界一般ノ法ナリ善ヲ勸メ惡ヲ懲スノ法ナリ他ノ如何ナル法ヲ以テスルモ決シテ之ヲ排除シ或ハ其區域ヲ縮少スルヲ能

ハズ人民モ議院モ該法ニ服従スルヲ拒ムヲ得ズ彼ハ羅馬ニ適シテ雅典ニ合ハズ今日ハ是ニシテ明日ハ非ナルガ如キアルナシ此ノ聖ナル法並ニ之ヲ設立確定セシ神即世界ヲ統御經紀スルノ神ハ万國万世ニ王タルナリ」ト夫レ然リ然ラバ則徳義法ナル者至上至聖ノ立法者ガ人間ノ心中ニ記銘セシ所ノ者ナリ良心ハ人ノ靈魂中ニ止在スル至上至義ナル審判者ノ聲ナク噫善人ヲ苦慮貧賤ノ間ニ慰藉シ惡者ヲ安樂富貴ノ間ニ懲創スル靈妙不可思議ノ良心ハ實ニ正義ナル神ノ造工ニ非ズンバ誰カ能ク之ヲ造成センヤ良心ノ眞神ノ存在ヲ證スル豈明々白々ナラズヤ故ニ余輩ハセネカ氏ト共ニ云ハントス曰ク「良心ノ働ハ恒ニ吾人ニ職分ヲ示教スルノ神ガ自ラ吾心中ニ存在スルノ結果ナリト」第三證吾人ハ又幸福快樂ヲ得ント欲スルノ希望心ヲ固有

希望ノ永
久ナルヲ
以テ神ノ
存在ヲ證
ス

ス且ツ此ノ福樂ハ眞誠ナル永遠ノ福樂ニシテ全ク人間ノ
特性ヲ満足セシムベキモノナルヲ感ズルナリ然リト雖吾
人ノ催促スル所ノ福樂ハ陋劣ニシテ賤ムベキ肉軀ノ快樂
ニ非ザルナリ何トナレバ肉軀ノ快樂ハ浮雲ノ如ク朝露ノ
如ク忽チ颯散消盡シテ吾人ニ憂カシムル能ハザルノミ
ナラズ大ニ靈魂ノ潔白ナル快樂ヲ戕害スルコトアレバナリ
又多ク事ヲ記シ博ク物ヲ識ルヲ以テ眞誠ナル福樂トナス
能ハズ何トナレバ人間ノ智識ハ狹隘ナルヲ以テ博聞強識
ノ士ト雖未ダ完全(永遠無疆)ナル福樂ヲ覺得セザリシナリ
又他人ノ愛敵親誼扶助ニヨリテモ眞誠ノ福樂ヲ得ル能ハ
ズ何トナレバ他モ亦等ク我ト同シキ人ナレバナリ我自己
ノ幸福ヲ爲ス能ハザレバ彼モ亦彼ノ幸福ヲ爲ス能ハザル
ナリ彼自己ノ幸福ヲ成ス能ハズ爭テカ吾ガ望ム所ノ幸福

ヲ與フルヲ得ンヤ之ヲ要スルニ此ノ世ノ者ハ一トシテ吾
人ノ性情ヲ満足セシムル能ハザルナリ然リト雖幸福快樂
ヲ得ントスルノ情ハ我之ヲ奪フ能ハズ然ラバ則我ヲ創造
シ我ニ此情ヲ賦セシ者アリテ後世我ニ永遠無究ノ福樂ヲ
與フルハ疑ナキ所ナリ且ツ夫レ良心ハ善惡正邪ノ報應即
善人ハ福樂ヲ受ク惡人ハ禍難ヲ享ク可キヲ催促スルナリ
然レニ退キテ實地ヲ願ミルニ大ニ之ニ反スルモノアリ故
ニ余輩ハ各人ノ行爲ニ從テ死後ニ之ヲ賞罰スル正義ノ審
判者アルヲ確信セザルヲ得ザルナリ是亦万国万民ノ公認
スル所ナリ故ニライムンド氏曰ク「人間ハ自由ノ旨アリテ
或ハ賞セラレ或ハ罰セラルベキノ行爲ヲナス故ニ人ヲ賞
罰スル至智至義ノ審判者ナクシテバアルベカラズ」ト(カント
ハ此ノ證ヲ以テ衆證ノ上ニ置キ極メテ明瞭ナル證トナセ

靈魂ノ三
力自然ニ
神ニ歸向
ス

リ)余輩已ニ第一二三ノ證ヲ説キ了リ今將ニ第四證即虔恪
ナル行爲ノ證ヲ陳述セントスルニ際セリ夫レ世間虔恪ノ
行ヲ爲スモノ寔ニ僅々ニシテ指ヲ屈シテ數フルヲ得ベシ
故ニ第四證ハ人間一般ノ證トナル能ハザルベシ(人皆虔恪
ノ行ヲ爲サバ則一般ノ證トナルベシ)然リト雖人ヲシテ神
ノ存在ヲ知ラシムル蓋此證ヨリ明白ナルモノアラザルナ
リ何ゾヤ
第一已ニ前ニ述ベシガ如ク人間ノ靈魂ハ眞理ヲ尋ネ善義
ニ趣キ幸福ヲ慕ヒ靈魂ノ三力タル智意情ハ眞理ノ基善義
ノ源幸福ノ泉ナル神ニ歸向ス蓋是人間自然ノ性情ナリ然
リト雖人若シ汚行ニ耽溺シテ善業美事ヲ營マザレバ其智
慧昏迷ニシテ眞理ヲ尋ネズ意旨汚穢ニシテ善義ヲ愛セズ
心情冷淡ニシテ美麗ヲ(幸福)感セズ神ニ歸向スルノ念ハ漸

々消縮シテ遂ニ無上ノ眞無上ノ聖(善義)無上ノ美ナル神ア
ルヲ感セザルニ至ルナリ人若シ此ノ極ニ至ラシムル如何
ナル證據ヲ以テ之ヲ訓諭スルモ頑トシテ神ノ存在ヲ認メ
ザルベシ之ニ反シテ心志虔恪品行方正ナル人ハ性ニ循テ
思考シ性ニ循ヒテ希望シ性ニ循ヒテ動止シ性ニ稱フノ善
ヲ行ヒ性ニ戻ルノ惡ヲ除クガ故ニ其靈魂ノ三力ハ天然自
然ニ眞誠正實ノ開發趣向ヲ得之ヲ誘導シテ直ニ眞理善義
美麗ノ根源タル神ニ歸向セシムルナリ其斯ノ如キヲ以テ
虔恪眞實ノ人ハ神ノ存在ヲ信認スルコト甚ダ堅クシテ言ヲ
巧ニシテ辨ズル者アリト雖決シテ之ニ從ハザルナリ
第二善人ノ靈魂ハ日一日ヨリ進ミテ無上ノ眞無上ノ善無
上ノ美ト相接シテ眞理ヲ悟リ善義ヲ行ヒ美麗ヲ感シ又神
ト親近シテ莫大ノ賜力ヲ得自己ノ力ノ成ス能ハザル事業

ヲ成スヲ得斯ノ如ク他ニ求ムル能ハザルハ靈糧ヲ得他ニ
 受クル能ハザルノ大カヲ賜ハリテ明ニ其生命才能ヲ授與
 スルノ神アルヲ感覺スルナリ猶吾人ガ吾人ノ身邊ヲ環圍
 スル空氣ヲ呼吸シテ其存在ヲ疑ハザルガ如シ故ニ義人ノ
 神ノ存在ヲ堅ク信ズルハ自己ノ存在ヲ確知スルト一般ナ
 リ
 第三義人ハ其本性ヲ破ラズシテ善ヲ積ミ徳ヲ修ムルニ因
 テ神賜ノ大カヲ得ルナリ而シテ其之ヲ用フルコトノ正キヲ
 得ルガ故ニ罪惡ノ誘惑ニ陷ラズ物慾ノ私ニ克テ元惡ノ魔
 ニ勝テ心志益誠實トナリ以テ漸々神像ニ肖似シ來ルナ
 リ(蓋人ハ神ニ似テ創造セラレタリ)義人ハ自己ノ心中ヲ觀
 察シ神ノ己ノ衷ニ反射スルヲ洞見シ自ラ神ノ肖像ナルヲ
 信シテ我が原像者タル神アルヲ疑ハザルナリ義人ノ靈目

ヲ以テ神ヲ見ルノ明ナルハ猶吾人ノ肉眼ヲ以テ物ヲ見ル
 ノ確ナルガ如シ
 由是觀之人ヲシテ明ニ神ノ存在ヲ知ラシムル方法ハ左ノ
 數言ニ在リ曰ク爾恒ニ神ノ自前ニ在ルモノハ如クモヨ則
 神アルヲ疑ハザルベシ爾己ヲ神ノ象トナセヨ則自己ノ中
 ニ於テ原像者ヲ見ルヲ得ベシト
 讀者ハ以上縷述スル所ヲ以テ業已ニ宇宙万物ヲ創造經紀
 スル所ノ有神無限全知全能至聖至仁ノ神アルヲ了知セラレ
 タルナルベシ然リト雖世ニ亦無神論ヲ主張シテ天地ヲ攝
 理スルノ上帝ナシト云フ者アリ豈痛歎ノ至ナラズヤ故ニ
 余輩ハ茲ニ親ク無神論者ヲ面折セシ主教プラトノ言ヲ
 引キ世人ヲ警覺シテ眞神アルヲ忘レザラシメントス其言
 ニ曰ク凡ソ神ヲ捨テシ人ハ其心意品行敗壞シテ底止スル

所ヲ知ラズ又其苦難ヲ避クルノ處ヲ獲ザルナリ譬バ堤ヲ
決シタル河流ノ如ク惡癖ハ惡癖ヲ釀成シテ罪惡ヲ增長ス
猶波浪ノ相逐フテ愈急奔スルガ如シ彼自然ニ自己ノ罪惡
ヲ憶想シテ畏懼戰慄ス彼ハ善徳ニ賦與セラルハノ快樂ヲ
失ヒ罪惡ト相接スルノ痛傷ヲ覺ユ人ヲ害スルヲ以テ人ニ
憎マレ神ニ抗スルヲ以テ神ニ怒ラル彼安ク其避所ヲ獲ン
ヤ(中略)普天ノ下不信ヲ以テ神ニ遠ザカリ神ヲ畏敬セザル
ヨリ懼ルベキモノナシ斯人生レザルヲ幸ナリトス
夫レ宗教ナル者ハ神ト人トノ關係ナレバ一方ヨリハ無始
無終ナル神ノ存在ヲ要シ一方ヨリハ人間ノ靈魂ノ有神不
死ナルヲ要ス故ニ是ヨリ一步ヲ進メテ靈魂ノ有神不死ナ
ルヲ明證シ以テ宗教ノ大厦ノ構造ヲ示サント欲ス因テ先
ク靈魂ノ有神ナルヲ説キ而シテ後其不死ナルニ論及セシ

靈魂ノ有
神不滅ナ
ルヲ論ズ

蓋靈魂ノ無形靈性ナルハ心理學ノ詳示スル所人間ノ智覺
ハ經驗トノ明證スル所ニシテ尤モ親易キノ眞理ナリ今之
ヲ左ニ證ス
第一自己ノ智覺ト日常ノ經驗トニ對照比較シ以テ細ニ之
ニ考案ヲ下スルハ靈魂ノ有神ナルト甚ダ明瞭ナリ余輩ハ
靈魂ノ思考スル所ヲ自覺シ而シテ經驗ハ凡ソノ物体ノ思
考スル能ハザルヲ證ス余輩明ニ知ル吾人ノ靈魂ハ自主自
由ノ神徳ヲ具ヘテ思考ナリ希望ナリ居動ナリ自由ニ之ヲ
發起シ自由ニ之ヲ變換シ自由ニ之ヲ停止スルヲ得ルヲ又
吾人ノ想像ハ出沒變化シテ殆ト端倪スベカラズ是各人ノ
自覺スル所ナルベシ然リ而シテ日々ノ經驗ハ余輩ノ爲ニ
凡ソ物体ノ性質ハ不活不動ナルガ故ニ自ラ運動靜止スル
能ハズ其動止スルハ唯一定自然ノ法ニ從フノミニシテ他

力ニ藉テ然ルヲ證ス然ラバ則吾人ノ靈魂ハ全ク物体ト異
 ナル者ニシテ非物質ノ者タルヲ明々タリ又單ニ自己ノミチ
 觀察スルニ我が身体ノ耳目ニマレ鼻口ニマレ手足ニマレ
 及ヒ其他ノ四支百体ニマレトシテ自己ヲ知覺スル能
 ハズ又一トシテ他ヲ想定スルヲ能ハザルナリ而シテ知覺
 思考判斷想定ハ獨リ靈魂ノ能クスル所ナリ又吾人ノ生命
 ハ二個ノ働ヨリ成立ス一ハ吾人ノ智覺外ニ發生シテ吾人
 ノ意旨ニ拘ハラザル一定自然ノ法則ニ從フ所ノ働ナリ消
 食血液循環等則是ナリ一ハ全ク吾人ノ權内ニ在リテ吾人
 ノ所欲ニ從ヒテ左右前後スルヲ得ル所ノ自由ノ働ナリ思
 考舉動等則是ナリ夫ノ斯ノ如ク人間ハ二個ノ要素即肉体
 ト靈魂トノ二ノ者ヨリ成立シ而シテ靈魂ハ全ク肉体ト相
 反スルモノナリ夫曰ニ物体ト異ニシテ肉身ト相似ザレバ

靈魂ハ身
 體組織ノ
 結果ニア
 ラズ

則人間ノ靈魂ハ非物質ナルモノナルナリ之ヲ反言スレバ
 無形有神ナルモノナルヲ愈明ナリ
 第二抑感官ノ物ニ觸レ事ニ感ズルヤ靈魂ハ其感觸スル所
 ナ覺エテ我乃始メテ其事物ヲ知ルヲ得ルナリ縱令五官ハ
 其働ヲ爲スト平常ニ異ナラズト雖我が靈魂五官ノ感觸ス
 ル所ノモノヲ知覺スルニ非ラザル以上ハ其感觸ハ内部即
 靈魂ノ感觸トナルヲ能ハザルナリ吾人ハ重大ノ事ヲ深思
 シ又甚ダ愉快ナル事ニ遇ヘバ感官ハ其働ヲ止メズト雖少
 クモ外部ノ感觸ヲ知覺ヒザルヲ喻ハ他ニ思フ所アル片ハ
 視テ見エズ聽テ聞エズ食テ其味ヲ知ラズ觸レテ其感ヲ覺
 エズ感官ハ頑冥不靈ナルガ如ク然リ知ルベシ吾人ハ五官
 ナリテ事物ヲ知覺スルニアラザルヲ事物ヲ知覺スルハ靈
 魂ノ働キニシテ五官ハ靈魂ガ感動ヲ覺ユル外部ノ機器ト

ルニ過キザルノミ故ニ身体ハ靈魂ニ藉テ立ツ者ニシテ苟モ靈魂ナカラシニハ耳目手足具備スト雖悉ク廢シテ用ヲ爲スト能ハズ必ズ速ニ朽ルニ至ラシ見ルベシ人間ノ靈魂ハ全ク身体ト異ニシテ其非物質ナルヲ乃其無形有神ナルヲハ言ハズシテ判然タリ又疾病疫癘ノ際ニ靈魂ノ歡喜スルヲアルガ如キ身体健康ノ時ニ靈魂ノ苦痛スルアルガ如キ身体ノ痛楚ヲ抑ヘ自若トシテ思付スル所アルガ如キ往昔ノ致命者が慘酷ナル苦難ノ際ニ於テ神ヲ稱揚讚美セシガ如キハ明ニ靈魂ノ實有神無形ナルノミナラズ自由自主ニシテ身体ニ勝絶スルモノナルヲ顯示スルニアラズヤ嗚呼誰カ我が靈魂ノ有神ナルヲ疑ハンヤ然ルニ彼ノ唯物論者ハ此規易キ道理ヲモ解セズシテ妄ニ其邪說ヲ執リテ曰ク人間ノ靈魂ハ身体組織ノ結果ニシテ亦物質ノミ決シ

テ有神ニ非ズト夫レ然リ豈其レ然ラシヤ徐ニ自己ノ内部ヲ觀又我が靈魂ノ生活ヲ視ヨ智慧上ノ働ノ如キ(思考智覺判斷)徳義上ノ働ノ如キ(良心ノ愛善嫌惡並ニ其勸善懲惡等)宗教上ノ情意ノ如キ(神ヲ信仰欽慕シ永遠ノ眞福ヲ希望スル等)ハ毫モ身体ノ働ト相似タルモノナキニアラズヤ之ヲ如何ツ身体組織ノ結果ト云フヲ得シ誤謬モ亦甚シト謂フヘシ然リ而シテ人間ノ靈魂ハ獨リ有神靈妙ナルノミナラズ亦永存不滅ナル者ナリ此ノ眞理ハ尤モ人ヲ慰藉獎勵スル所ノ者ニシテ脩身砥行ノ根原ナルニモ拘ハラズ世ノ偏見論者ハ全人間ニ對シ器々トシテ靈魂不死ノ眞理ヲ駁撃シ以テ之ヲ社會人間ノ腦裡ヨリ拂ヒ去ラント欲ス此ノ豈洋海ヲ涸ラサント欲スルノ類ニアラズヤ然リト雖此ノ問題タル至重至大ニシテ來世生活ノ有無如何ニ關スルヲ以

テ余輩ハ之ヲ論議辨明シ以テ論者ノ迷謬ヲ解カント欲メ
 將々解カザルヲ得ザルナリ
 第一人間ノ靈魂ハ永存不滅ニシテ身体ト共ニ存亡セザル
 トハ万国万民ノ智覺保證スル所ナリ蓋是人性ノ固有ナリ
 之ヲ人ノ智慧ニ求ムルニ中ニ必ズ靈魂不死ノ思想アルヲ
 悟覺スベシ而シテ此ノ思想ハ那處ヨリ發生セシヤト尋ヌ
 ルニ人々ガ其心中ニ於テ自ラ眞理ナリト感覺セシニ由テ
 發生セシナルベシ否ヲザレハ人此ノ思想ヲ得ルニ道ナキ
 ナリ試ニ眼ヲ開テ四邊ノ万物ヲ視ヨ永遠不滅ノ者何ノ處
 ニカアル一トシテ破壊セザル物ナク一トシテ變易セザル
 モノナキニ非ズヤ而シテ破壊シ變易スルモノハ早晚亡滅
 セザルヲ得ザルノ理由アルニアラズヤ又人間ノ身体ハ靈
 魂ト分離シテ如何ナル有様ニ立至ルカヲ視ヨ忽チ腐敗シ

靈魂ハ身
 体ト共ニ
 滅亡スル
 モノニア
 ラス

テ土壤ト共ニ化シ少クモ禽獸草木ニ勝絶スル所ナキノミ
 ナラズ之ト毫厘ノ差異ナキノアラズヤ(人何ノ故ヲ以テ禽
 獸ヲ不死永存ノ者トナサヤルヤ)吾人ハ万物ノ斯ノ如キ破
 壞變易ノ中ニ孤立シテ靈魂不死ノ思想ヲ何ノ處ヨリ求ム
 ルヲ得ルヤ見ルベシ人ノ已チ不死者ト爲ス所以ノモノハ
 是其本性ノ一部分ニ於テ我ハ永遠死セザルナリト深ク感
 動スル所アルニ依テ然ルヲ人ノ此ノ世ニ居ルヤ曾テ己ノ
 死スルヲ思ハザルガ如キ日夜孜々汲々トシテ惟後世ノ榮
 譽ヲ求メントシテ焦慮スルガ如キ甚キニ至リテハ名ヲ竹帛
 ニ垂レントシテ已チ殺スガ如キ苟モ能ク之ヲ分析セバ即
 是其靈魂不死ノ本性イニステンクトノ知ラズ知ラズ外面ニ顯レ來リシモ
 ノニ過ギザルベシ靈魂不死ノ智覺ハ斯ノ如ク其レ強且ツ
 健ナリ誰カ其不死不滅ナルヲ疑ハンヤ且ツ吾人自己ノ不

死ヲ思惟シテハ則欣ビ靈形ノ全滅ヲ想像シテハ則懼ルハ
 ガ如キハ亦以テ靈魂不死ノ一證ト爲スベシ斯ク論ヲ去テ
 ハ人或ハ説ヲ爲シテ曰ハシ人問ハ己ヲ慰藉欣歡スルガ爲
 ニ靈魂不死ノ思想ヲ創思シタルナリト決シテ然ラザルナ
 リ何トナレハ來世生活ノ想像ハ必ズシモ吾人ヲ欣慰セシ
 メス反テ吾人ヲ畏懼戰慄セシムルモノアレバナリ斯ノ如
 ク万国万民ハ靈魂不死ノ一般ナル思想ヲ有シ而シテ宇宙
 ノ万物ハ吾人ノ爲ニ之ヲ作爲スルコト能ハザルモノナルガ
 故該思想ハ造物主ノ自ラ我が靈魂ニ嘘入セシモノヨシテ
 靈神存在ノ思想ト等ク眞實无妄ナルモノナリ
 第二吾人ノ靈魂ハ有形物ニ非ズ無形ニシテ有神靈妙ナル
 モノナリ已ニ無形ニシテ有神ナレハ其不死不滅ナルコト論
 ナ待タザルナリ蓋靈魂ノ有神ト不死トハ猶車ノ兩輪ノ如

靈魂ハ物
 体ト存亡
 ナ同クセ

ク鳥ノ兩翼ノ如キモノニシテ兩ナガラ分離スベカラザル
 ノ眞理ナレバナリ
 今夫レ坤輿載スル所ノ万物ヲ觀ルニ一トシテ全ク鳥有ニ
 歸スルモノアルナク一トシテ全ク滅死スルモノアルナシ
 吾人が稱シテ鳥有ニ歸シ滅亡ニ屬セリトスル所ノ者ハ物
 ノ分析若クハ破壊若クハ腐敗シテ唯其形狀ヲ變易スル迄
 ニ止ルモノニシテ其實ハ決シテ滅スルニ非ズ死スルニ非
 ザルナリ歐米學士ノ經驗ニ依ルニ宇宙間細小微末ノ者タ
 リト雖一トシテ人カヲ以テ之ヲ鳥有ニ歸シ之ヲ全滅ニ屬
 セシムルコト能ハズ細小ノ元素ト雖之ヲ全滅スルハ天地万
 有ヲ創造セシ全能者ニ非ザレバ爲スコト能ハズ万物ヲ無ヨ
 リ創造スルト造物ヲ無ニ復歸スルトハ兩ヲ人智ノ得テ會
 シ難キ業事ナリ故ニ余輩ハ物全ク滅亡ストハ判然想像ス

ルコチモ能ハザルナリ斯ノ如ク吾人ノ所謂死トハ物ノ全
ク鳥有ニ歸シ亡滅ニ屬スルヲ云フニ非ズシテ唯其物ノ成
立スル分子ノ離散解体スルヲ云フノミ願テ自己ヲ見ヨ靈
魂ハ是如何ナルモノゾ今茲ニ之ヲ有形物質ト假定スルモ
鳥有ニ歸スルノ理ナシ況ヤ人ノ靈魂ハ非物質ナルニ於テ
チヤ如何ゾ全ク消滅死亡スルノ理アラシヤ余輩今更ニ一
歩ヲ進メテ之ヲ論ゼンニ吾人ノ靈魂ハ已ニ陳述セシガ如
ク靈妙有神ナリ靈妙有神ナレハ則チ單一無二ノモノニシ
テ複雑ナル組織物ニアラズ斯ノ如ク靈魂ハ已ニ不混合ノ
元素ナレバ吾人ヲ環圍スルノ有形物ト等ク分析破壊腐敗
スルコト能ハズ即全ク消滅死亡スルコト能ハザルノミナラズ
其狀態モ變易スルコト能ハザルモノナリ靈魂ノ狀態ヲ變
若クハ存在ヲ絶ツノ權力ハ唯之ヲ創造モシ全能ナル神ノ

人ニ來世
ノ生活ナ
カナルベ
ラザルチ
論ズ

掌中ニ在ルノミ然リト雖自己ノ靈魂肖似ナル造工ヲ變化
スルコト况ヤ之ヲ消滅スルコトハ全知全能ナル造物者ノ德義
上ニ於テ能ハザルコトナルガ故人間ノ靈魂ハ其性自ラ死亡
セザルノミナラズ又眞神ノ鳥有ニ歸セシメザル所ノモノ
ナリ夫レ然リ然ラバ則チ吾人ノ靈魂ハ身体ト共ニ破壊腐敗
セズシテ永ク其固有ノ存在ヲ保續スルモノナルコト昭々ト
シテ明ナリ
第三初神ノ人ヲ創造スルヤ之ニ賦スルニ種々ノ智能才力
ヲ以テシ而シテ其能力ノ無限ニ開達進歩スルヲ定メヨ
是人ノ智慧上ニ於テモ德義上ニ於テモ駁々トシテ常ニ進
ミテ止マズ身体ハ將ニ破壊セントスル場合ニ立至ルモ神
靈ハ毫モ其行動ヲ停メザル所以ナリ凡ソ人ハ知ラント欲
スル自然ノ念ヲ有スアリストテハ此ノ念ヲ眞理ニ於ル

ハ恰モ貪利者ノ金銀寶貨ニ於ルト一般ニシテ學術巧藝ニ如何ニ大ナル進歩ヲ見ハスト雖決シテ飽クヲ知ラズ加之愈智識ヲ廣ムルニ從ヒ眞理ノ範圍ヲシテ益我ガ腦裡ニ大ナラシメント欲スルナリ又人如何ニ時日ヲ費シ功勞ヲ積ムヒ人道ノ龜鑑タル德義法ヲ成全スルヲ能ハズ脩身砥行積德累善以テ純全タル天父ニ近クニ從ヒ愈我ガ罪惡ノ夥多ナルヲ覺エ善德ノ足ラザルヲ悟リ益上帝ノ尊貴ヲ知リ自己ノ卑微ナルヲ感ズ猶人臣ノ帝坐ニ近ツクニ隨ヒテ増謙遜自卑スルガ如シ古ヨリ今ニ至ルマデ如何ニ博學深識ノ士タリヒ自ラ以テ足レリトセシモノナク眞誠ノ賢人君子ハ恒ニ己ノ善德ノ脩ラザルヲ憂ヒタリ今其一二ヲ舉ゲテ之ヲ例センニ先哲ソクテラスハ當時希臘ノ學問ヲ學ビ盡シテ後人ニ告ゲテ曰ク我ハ唯吾ノ何事ヲモ知ラザルヲ

知ルト「理學ノ大家ニウトシハ死ニ臨テ語テ曰ク我ハ世ノ吾ガ功勞ヲ如何ニ評スルヲ知ラズ余ヲ以テ之ヲ見ルニ余ハ猶海岸ニ遊戯スル童子ノ如シ或ハ潤滑ナル石ヲ得或ハ光輝アル貝ヲ得ノミ然リ而シテ眞理ノ測ル可ラザル大洋ハ余ガ目前ニ茫々タリト」パウエルヒリッブ人ニ謂テ曰ク我非既得亦非既成惟我追之或可獲之我不以爲既獲惟務於此一端即不顧後乃望前ト之ヲ要スルニ眞誠ノ有識者ハ靈魂ノ飢渴ハ人之ヲ飽カシムル能ハザレヒ其才力ハ限リナク開達進歩シ得ベキヲ確認シタリ余輩ハ日常ノ經驗ニヨリテ賢人學士ノ吾人ヲ誣ヒザルヲ信ズルナリ夫レ斯ノ如ク人間ノ靈魂ハ一日ヨリ善良高尚トナリ限リナク純全ニ趣クヲ得ル者ナリ然リト雖退テ實地ヲ視レハ殆ト余輩ヲシテ望洋ノ歎アラシムルモノアリ其故如何トナレバ彭祖

浦島子ノ長壽ヲ借ルト雖モ我ガ才力ヲ開達シテ其進歩スルヲ得ベキノ極點ニ至ラシムル能ハズ况ヤ人生ハ僅ニ五十年ナルヲヤ神靈ノ生活ノ愈々開達セントスルノ際靈魂ノ思想感情希望ノ益々高尚ノ點ニ達セントスルノ際ニ於テ死亡ハ俄然我ガ生命ヲ奪ヒ去リテ人間ノ最モ厭惡スル所ノ墓中ニ入ラシメ吾人ノ靈魂ハ身体ト共ニ烏有ニ歸シテ亦其才力ヲ琢磨スルヲ得ザルニ至ル吾人豈ニ憫然タル活動物ニ非ズヤ神始メ人靈ニ賦與スルニ永存不死ノ希望ヲ以テシ開達不息ノ才力ヲ盡サシメズシテ其生前脩省ノ功ニ酬ユルニ消滅死亡ヲ以テスルカ果シテ然ラバ神ハ豈殘忍刻薄ナルニアラズヤ然リト雖モ神ノ吾人ヲ視ル既ニ子ノ如シ余輩ハ神ノ果シテ殘酷ナラザルヲ保スルナリ父ノ其子ヲ養フヤ始メニ善ク之ヲ教育シ漸ク學齡ニ至ルニ及テ

其智慧ヲ切瑳セシメズ其心志ヲ琢磨セシメズ之ヲ一室ニ閉シテ生涯其外ニ出ルヲ許サザルガ如キ無智殘酷ノ所爲アルコトナカルベシ况ニ至智至善ノ天文ニ於テシヤ豈ニ人靈ノ才力生育ノ中途ニ於テ俄ニ其生命ヲ絶ツノ理アラシヤ父ハ其子ノ學術上德義上ノ進歩ト結果トヲ見ルヲ希ヒ之ヲ見テ而シテ欣然タリ斯ノ如ク在天ノ父モ亦其子ナル人間ノ不成全不完備ナルヲ喜バズ即我ガ靈魂ノ爲ニ來世ノ生活ヲ具ヘ人ヲシテ此處ニ於テ其希望ヲ満足シ其才能ヲ盡サシメ以テ其已ニ肖似スルヲ見ルヲ希フコト疑フ容レザルナリ

夫レ斯ノ如ク來世ノ生活アリテ靈魂ノ才能ト其開達トニ相齟齬スルナク吾人之ヲ希望シテ其性ト成全トニ相恰當スルナリ靈魂死セズシテ始メテ其目的ヲ達スルヲ得神ノ全

地上ノ諸
物ハ人心
ノ希望ヲ
飽カシム
ル能ハズ

知至善ナルヲ領解スルヲ得ルナリ

第四人間ハ快樂ヲ享ケ幸福ヲ獲シト欲スルノ情甚ダ切ニシテ恰モ渴者ノ飲ニ於ケル飢者ノ食ニ於ケルト一般ナリ而シテ其心中ノ飢渴ハ世間一モ其意ヲ滿タシムル者ナク万物一モ其心ヲ飽カシムルモノナシ人間ハ如何ニ此ノ世ノ安樂幸福ヲ極ムト雖其心意決シテ之ヲ以テ足レリトセズ縱令セツストリスノ威光ヲ冠シクシトスノ富室ニ坐スト雖其靈魂ハ決シテ之ニ安セザルナリ然レモミナラズ益々今世ノ安樂ヲ得ルニ從ヒテ愈々心中ノ不平悒鬱嫌忌ヲ覺エ早晚絶望ノ時期來リテ我が靈魂ノ空虚迷惑ヲ悟ルニ至ルナリ視ヨ夫ノ榮華ノ極ハソロモンヲシテ凡所有者大虚之虚也我所勞之諸勞皆虚也捕風也大樓壯室金銀富財榮華宴樂此亦虚也捕風也勞苦之極也」(傳道之書一、三、二、四、八、十六、三)ト

其眞情ヲ吐露セシメタルニアラスヤ天地ノ間ニ森列スル千百ノ物ハ皆自己ノ命運ニ安シ生々活々トシテ恰モ無比ソ幸福ヲ得ルガ如クナルニ獨リ人間ハ万物ノ靈長タルニモ似ズ恒ニ自己ノ薄命ヲ訴ヘ悒々鬱々トシテ万物ノ生活ヲ嫉妬スル者ノ如シ余輩安ツ之ヲ異マザルヲ得ンヤ人間ハ孜孜汲々トシテ幸福ヲ求メント欲スレモ自カノ能ク得ル處ニアラス万物ノ此ノ如ク其分ニ安ズルヲ見テ其助ヲ假ラントスト雖彼元ト人間ノ臣僕ナリ豈ニ之ヲ能クセシヤ然ラバ則眞誠ノ幸福ハ遂ニ得テ求ムベカラザルカ而レモ眞福ヲ得ント欲スルノ念ハ我之ヲ禁ズル能ハズ神ハ此ノ希望ヲ吾人ニ賦シテ而シテ之ヲ満足セシムルノ意ナキカ吾人渴シテハ乃飲ミ飢テハ乃食ヒ勞シテハ乃慰ヒ寒ウシテハ乃衣ル身体ノ諸慾ヲ飽カシムル斯ノ如ク夫レ容易

ニシテ獨リ靈魂ノ希望ヲ飽カシムルノ道ナキカ身靈ノ權衡ヲ失フ何ツ其レ甚シキヤ然リト雖此レ天理人道ノ許サザル所ナリ若シ夫レ人間ノ目的ハ地上ニ在ル者トセバ則今世ニ於テ其希望志願ヲ成就スルヲ得ベケレモ靈魂ノ之ニ満足セザル所以ノ者ハ此レ其希望スル所ノ完全タル幸福ハ地上ニ在ルニアラズシテ天上ニ在ル所以ナリ蓋人間ノ靈魂ハ地ニ屬スル者ニアラズシテ天ニ屬スルモノナルガ故ニ其目的ハ來世ノ生活ニ在ルナリ由是觀之神ハ死後即來世ノ生活ヲ以テ靈魂ト身体ト相分ルハノ日ニ至リ地上ニ於テ飽カザルノ希望ヲ満足セシメ永遠不朽完全眞誠ノ幸福ヲ得セシムルハ一點ノ疑ヲ容レザル所ナリ變態極リナキノ人ト雖靈魂ノ不死ヲ確信スルニ至レバ忽チ心靈ノ平康ヲ覺エ苦難ノ間モ欣然トシテ喜ブニ至ルハ以テ靈

賞善罰惡
ノ法ハ神
明ノ公義
ナルヲ論ズ

魂ノ不死ノ眞實ナルヲ推知スベキナリ偏見者又或ハ人ヲ欣慰スルガ爲ニ靈魂不死ノ思想ヲ創始セリト云フベケレハ余輩ハ之ニ答ヘテ曰ハシ人ノ其欣慰ヲ催促スルハ即自己ノ不死ナルヲ自覺スルノ結果ニシテ吾人ノ地ニ於テ欣慰セザルハ則吾人ノ不死ナルニ因テナリト
第五保羅曰ク神將報各人循各人所行者蓋神不偏視人也(羅馬二六十一)ト神ノ公義ナル限リナク善ニ報ズルニ福ヲ以テシ惡ニ酬ユルニ禍ヲ以テス蓋行爲ハ猶泉源ノ如ク禍福ハ猶川流ノ如シ泉源清メバ則川流必ズ清シ泉源濁レバ則川流必ズ濁ルハ當然ノ理ナリ故ニ天地ノ公道ハ道德ト福樂ト相恰當シ惡逆ト禍難ト相支吾スルナキヲ催促スルナリ又試ニ之ヲ靈内ノ良心ニ問ハシ良心ハ將ニ吾人ニ答テ云ハシトス幸福榮華ハ善人獨リ之ヲ享クベシ是其積善脩

徳ノ酬賞ナリ惡逆無道ノ人ハ固有ノ幸福念アリト雖禍難ノ報罰ヲ免レズト或人曰ク公義ノ促ス所良心ノ言フ所寔ニ此ノ如シト雖實際ニ就テ之ヲ考フレバ大ニ之ト相反スルモノアリ忠愛善義人類ヲ裨益シテ天年ヲ完フセズ畢生苦難シテ卒ニ早世スル者アリ奸惡兇暴社會ヲ惱マシテ忌憚スル所ナキモ終身逸樂ニ耽リ壽ヲ以テ終ル者アリ顔回ノ貧ニシテ天シ盜跖ノ富テ壽ナルガ如シ所謂善惡ノ應報ハ果シテ安クニ在ルヤ神明ノ公義ハ安クニ在ルヤト曰ク今世ニ於テハ徳義モ全ク其賞ヲ獲ズ兇惡モ相當ノ罰ヲ受クズ故ニ若シ今世ノ榮辱禍福ヲ以テ善惡ノ應報トナサバ神ノ公ナラザルハ誠ニ或人ノ言ノ如シト雖万國何レノ民カ神ノ大公ナルヲ知ラザランヤ人間誰カ善惡ノ應報アルヲ信ゼザランヤ彼此ヲ參照比較シテ之ヲ推考スレバ死後

却來世永遠ノ生活アリテ各人ノ行爲ニ隨ヒ各相稱ヲ受クルハ一點ノ疑ヲ容レザル所ナリ果シテ然ラバ人ヲ偏視セザルノ神ハ永存不滅ノ性ヲ人間ニ賦與シ今世ニ於テ善惡正邪ヲ分チ來世ニ於テ榮辱禍福ヲ定メ其必然ノ理ナリ斯ク論ハ來テバ人或ハ説ヲ爲シテ曰ハシ善人ハ其善義ニ於テ己ニ幸福ヲ獲惡人ハ其惡逆ニ於テ既ニ禍難ヲ享ク亦何ツ死後ノ應報ヲ要セシヤ亦何ツ人靈ノ不死ヲ要セシヤ視ヨ義者ハ如何ニ貧辱困苦ヲ極ムルモ良心ハ自ラ之ヲ賞譽快慰シ不義者ハ如何ニ安富尊榮ヲ窮ムルモ良心ハ自ラ之ヲ責罰貶黜スルニ非ズヤト曰ク良心ノ或ハ善人ヲ慰メ或ハ惡人ヲ苦ムルハ來世ノ應報ノ僅ニ其端緒ヲ開クニ過キザルノミ神ハ至仁ナレバ義者ニ報マルニ安ク此ノ小幸(來世ノ幸福ニ此ヲ云)ヲ以テシテ足ラシヤ神ハ至

殿ナレバ惡者ニ報ユル安ク彼ノ微苦ニ止マラシヤ况ヤ兇
 惡ハ今世ノ安樂ニ沈迷シテ靈魂ノ感動ヲ鈍クシ良心ノ運
 用ヲ壓シテ遂ニ其譴責ヲ覺エザラシムルニ於テヤ而シ
 テ忠義モ亦非常ノ悲哀艱苦ヲ覺ユルナリ善ヲ脩メ義ニ進
 ムニ當リテ誰カ曾テ千辛萬苦ヲ嘗メザルモノアラシヤ之
 ヲ如何ク善惡ノ應報其完全ヲ得タルモノトスルヲ得シヤ
 由是觀之死後少シモ悲哀ナク少シモ苦難ナキノ生活即永
 生ナル者アリテ善人始テ全ク其賞ヲ受クルハ是理ノ至レ
 ルモノナリ且ツ夫レ義人ヲシテ辛苦艱難ノ際ニ立テ確乎
 トシテ動カズ遂ニ其心志ヲ變易セシメザル所以ノ者ハ何
 ツヤ苦難ヲ以テ贏得ルノ善徳ニアラス乃一時ノ苦難ヲ終
 忍シテ不朽ノ幸福ノ報ヲ享ケンコトヲ信望スル是ナリ人
 第六然リト雖人ヲシテ最モ明瞭ニ靈魂ノ有神不死ナルヲ

知ラシムルハ更ニ一ノ方法アリテ存ス何ゾ度恪ノ行爲
 是ナリ夫レ度恪直ノ人ハ靈形ヲシテ權衡ヲ失ハシメズ
 身体ヲシテ靈魂ヲ其怒慧トナサシメズ反テ靈魂ヲシテ諸
 ノ肉慾ヲ壓シ肉情ヲ制スルヲ以テ精神ヲ高尚ニシ心情ヲ
 潔淨ナラシムルガ故ニ明ニ靈魂ノ身体ト大ニ相應絶スル
 ヲ知リ其希望目的ハ今世ノ喜樂ニ在ルニアラスシテ確ニ
 來世永遠ノ生活ニ在ルヲ覺ユルナリ蓋義人ハ神ニ居ルヲ
 以テ常ニ自己ノ中ニ於テ神靈ノ効用ヲ感シ今世ニ於テ業
 ニ已ニ來世永久ナル靈界ノ生活ヲ試ムルナリ故ニ度恪ノ
 人ハ人間靈魂ノ有神不死ニシテ死後永ク留存シテ滅セザ
 ルヲ明知スルナリ
 讀者ハ此ニ由テ零吾人ガ靈魂ノ永存不滅ナルヲ了知セシ
 ナルハシ諸氏ハ定メテ靈魂ノ不死ハ人間ノ尤モ貴重スベ

キ道徳ノ基本ナルヲ知ルナラシ吾人が備徳積善ヲ爲メ
 千辛万苦ヲ甘シテ敢テ怠ラザル所以ヲ者ハ靈魂不死ノ思
 想ニ職トシテ之レ由ルナリ吾人が善ヲ重シ惡ヲ嫌ヒ諸ノ
 誘惑ニ陥ラザラシメントスル所以ヲ者ハ大抵來世ノ賞報
 ナ享クルヲ信望スルニ因ルナリ此ノ思想ニシテ若シ人間
 ノ腦裡ヨリ除去セシメバ人間社會ハ忽チ變シテ禽獸社會
 トナラン此ノ信望ニシテ若シ人間ノ心中ヨリ除去セシメ
 バ道義ハ蕩然トシテ地ヲ掃フニ至ラシクミ故ニ余輩ハ爰
 ニ斷言シテ曰ハシ死後來世ノ生活ヲ人問ノ靈魂ハ永存
 不滅ナリ而シテ靈魂不死ノ思想ハ人間進歩ノ一大勢力ナ
 リト
 以上論述セシ所ヲ以テ讀者ハ定メテ宗教ノ何者タルヲ下
 知ヒテラレタルナルベシ宗教也者ハ是レ神トシテ結合シテ

重テ靈魂
 ノ三力ヲ
 擧ゲテ宗
 教ハ神人
 結合ノ性
 質ナルヲ
 論ス

ヲ(レ)シキヤ)所謂宗教トハテメシ語ヲ結或ハ約シ義ニシテ
 語自ラ宗教ノ大体本質ヲ顯示スルナリ神ノ初メ人ヲ造ル
 事自己ノ肖像ヲ之ニ賦シ聰明自由ニシテ自然ニ神ニ歸向
 スル又才力ヲ與人間創造ノ以前ニ於テ神ハ己ニ人ヲ結
 合メ婦夫開キ人ヲ自己ニ結合セシメテ爲ニ召導シ人ハ
 聰明自由ニシテ自然ニ神ニ歸向シ以テ其召ニ應ズ夫レ人
 ナシテ自然ニ神ニ歸向セシムル所ノ才力トハ何ゾヤ余輩
 ガ再三前ニ述ベタル靈魂ノ智意情ノ三力はナリ智ハ何ゾ
 ヤ眞理ヲ尋ヌルノ力ナリ而シテ眞理ノ根源即純全ナル眞
 理ハ獨リ神アルニミ然ラバ則人間ハ智ハ神ニ歸向スルモ
 メナリ意ハ何ゾヤ善徳ヲ愛スルノ力ナリ而シテ善徳ヲ龜
 鑑即無上ノ善徳ハ獨リ神アルニミ然ラバ則人間ハ意ハ神
 ニ歸向スルモノナリ情ハ何ゾヤ幸福ヲ望ムノ力ナリ而シ

テ幸福ノ基礎即無究ノ幸福ハ唯神ニ在ルノミ然ラバ則人間ノ心ハ神ニ歸向スルモノナリ由是觀之智ハ眞理ニ向フニヨリ意ハ善徳ニ向フニヨリ情ハ幸福ニ向フニヨリテ自然ニ人ヲシテ神ニ歸向シ之ト合シテニマラシムルモノナリ余輩が先ニ宗教ハ人間ノ固有ナリト云ヒシハ此ガ爲メナリ然リト雖余輩ハ茲三人ト神ト結合スルヲ得ベキヲ陳セシノミナレバ是ヨリ一步ヲ進メテ結合ハ如何シテ成全スルヲ得ベキヲ述ベント欲ス而シテ其此ノ如クナラシニハ一方ヨリハ神ハ自己ノ本性意旨幸福ヲ啓示シ一方ヨリハ人ハ其啓示ヲ受領シ且之ヲ活用セザルヘカラズ彼是相待テ神人ノ結合ハ始テ成全スルヲ得ルナリ

神ノ已チ
啓示スル
自然ノ方
法ヲ論ズ

スルコト能ハズ吾人ノ意ハ明ニ行ノ法規ヲ知ラザレバ我が身ヲ立ルコト能ハズ吾人ノ心ハ某々ノ幸福ヲ認メザレバ之ニ歸向スルコト能ハザルモノナリ夫レ然リ然ラバ則神人ヲシテ自己ト結合セシメシニハ神自己ノ本性即愛ノ眞理ニ依テ已ガ意旨ヲ人ノ意ニ教ヘ來世ノ約束即望ノ眞理ニ因テ已ガ幸福ヲ人ノ心ニ示サントル可ラズ一言以テ之ヲ言ハシニハ神自己ヲ宗教ヲ人ニ教諭セザルベカラザルナリ而シテ神ハ自然ノ方法ト自然已上ノ方法トノ二者ヲ以テ自己ヲ人ニ啓示シタリ

(自然ノ方法)神ハ一方ヨリハ人間ノ智慧ニ純全無限ナル者ノ思想ヲ吸入シテ以テ自己ヲ啓示セリ而シテ此ノ思想ハ人智開達ノ度ニ從ヒ愈明瞭ナルヲ得ルナリ一方ヨリハ有形ノ万物ニ於テ自己ヲ人ノ智ニ啓示セリ故ニ神ノ永能ト

其神体は天地ノ創造ヨリ以來造ラルノ物ニヨリテ明
 三之ヲ見ルベシ(羅馬二廿)又神ハ良心ヲ以テ自己ヲ人ノ意
 ニ啓示セリ蓋良心ハ吾人ノ中ニ留存スル所ノ神ノ僕ニシ
 テ神ノ命ニヨリ吾人ニ教示スルニ徳義ノ律法ヲ以テスル
 ナリ故ニ曰ク「律法ノ工ハ人ノ心ニ銘シ其良心之ガ證ヲ爲
 ス」(羅馬二二十五)神ハ又人ノ智慧ト良心トニヨリテ自己ヲ
 吾人ノ心ニ啓示セリ蓋人ノ心ハ良心ニ教ヘテ智慧ニ導
 カシテ切ニ至公至仁ナル在天ノ主ニ依頼仰望スルモノナ
 ルバナリ
 (自然而上ノ法)神ノ始メ人ヲ造ルヤ直ニ之ヲ以テ樂園ニ置
 キ數現シテ之ヲ與ニ語リ之ニ誠命ヲ示シ眞理ヲ明シ信教
 ヲ諭シテ(創世記二三章參看)爾來預言者ニ託シテ多方ヲ以
 テ屢列祖ニ語リ耶蘇基督ニ託シテ吾人ニ語リ聖神ヲ以テ

神ノ已チ
 啓示スル
 自然ニ上
 ノ方法ヲ
 論ズ

之ヲ吾人ニ啓示シタルナリ(希伯來一、二、三哥林多前二、十)
 如此神ハ人ヲシテ自己ヲ覺知セシメテ以テ結合ノ道ヲ開
 キタリ然リト雖神ノ人ヲ愛スルハ限りナク神ハ人ニ與フ
 ルニ結合ノ爲メニ最モ必要ナルソ力ヲ以テスルナリ抑宇
 宙ノ造物ハ己ノ生命ヲ他ヨリ受ケシモノナルニヨリテ他
 ノ扶助ヲ藉ラザレバ己ノ生命ヲ保ツ能ハザルモノナリ故
 ニ至智至仁ノ造物主ハ万物ニ生命ヲ賦シ而シテ又其生命
 ヲ保存スルノ道ヲ與フルナリ吾人ノ身体ハ飲食衣服空氣
 ノ三者ニ依テ其生命ヲ保チ且ツ養フ斯ノ如ク吾人ノ靈魂
 ニモ自己ノ生命ヲ保存シ自己ノ死亡ヲ防禦スル飲食衣服
 空氣ナクンバ有ル可ラズ然ラハ則靈魂ノ飲食衣服空氣ハ
 如何ナル者ツ神明ノ恩寵是ナリ恩寵也者ハ人間ノ靈魂ヲ
 シテ生々活々トシテ愈高尙ニシ益完全ナラシムル所ノ能

力ナリ我が始祖ノ未ダ罪ニ陷ラザルヤ特ニ此ノ神力ニヨ
 リテ以テ神ト結合ヲ深クセリダマスコノイデアノ曰ク造
 物者ノ人ヲ造ルヤ自己ノ神明ノ恩寵ヲ之ニ賜フテ以テ自
 己ト結合スルヲ致セリト故ニ人靈魂ノ生命ヲ眞誠ニ發育
 シ死亡ニ保存シテ神ニ於ケルノ關係ヲ成就セシムルハ必ズ
 神明ノ恩寵ニ仰賴セザル可ラザルナリ况ヤ今日吾人ハ惡
 ナリ易クシテ善ナリ難キ者ナルニ於テヤヤ
 神ノ人ヲ招クヤ前ニ述ル所ノ如シト雖吾人ハ此ノ招ニ應
 ゼザレハ神ト結合スルヲ能ハズ且ツ眞誠ノ人ト爲ル能ハ
 ザルガ故人ハ神ト結合シテ人間ノ位置ヲ全フセシムルハ必
 ズ神賜ノ方法ト才力トヲ活用セザルベカラズ
 第一神明ノ恩寵ノ翼助ニヨリ我が靈魂ノ全力ヲ盡シテ天
 啓ノ眞理ヲ收受スベシ即智ヲ以テ天啓ヲ受クテ神ヲ信シ

神賜ト才
 力トノ必
 要ナルヲ
 論ズ

情ヲ以テ天啓ヲ受ケテ神ヲ望ミ意ヲ以テ天啓ヲ受ケテ神
 ヲ愛セザル可カヌザルナリ保羅曰ク「今也信望愛此三者皆
 存」哥林多前十三、十三ト蓋此信望愛ハ宗教ノ三要理ナルヲ
 明示セシモノナリヲウシテイ曾テ其師アウグスチヌニ
 向ヒテ宗教ノ本質ト宗教ノ基礎トハ何ナルヤヲ問ヒシ片
 アウグスチヌ之ニ答テ曰ク爾明ニ何ヲ信シ何ヲ望ミ何ヲ
 愛スベキヲ識ラバ則爾ガ問フ所ノ者爾モトヨリ之ヲ知ル
 ベシト其レ然リ人間ノ信望愛ハ神人結合ノ樞要ナリ
 第二然リト雖人若シ信望愛ヲ有スト云ヒテ之ヲ外ニ現サ
 ヲレハ則未ダ眞誠ノ信望愛ヲ懷カザルナリ神明ノ誠明ヲ
 遵奉セザルナリ取モ直サズ神ト結合スルヲ能ハザルナリ
 故ニ吾人ハ神ト結合セシムルハ神明ノ恩寵ニヨリ虔恪ノ行
 爲ヲ願ハシテ自己ノ信望愛ヲ表セザルベカラズ虔恪ノ行

爲ハ眞誠ノ信望愛ノ結果ナリ此ノ善果ヲ結バズ
 シバ誰カ吾人ヲ眞誠ノ三徳ヲ備具スルモノト云ハシヤ又
 人間ハ有神ノ靈魂ト有形ノ身体トノ二者ヨリ組織セラレ
 テ身体ハ靈魂ノ思想希望情意ヲ顯ハスノ機器タルガ故外
 形ノ敬神ニ依リテ自己ノ信望愛ヲ表セザルベカラズ否ヲ
 ガレハ此レ亦眞誠ノ信望愛ナキト一般ナリ縦ヒ之アルモ
 甚ダ薄弱ニシテ頼ムニ足ラザルナリ
 第三神ノ人ヲ造リ且ツ之ニ神ニ肖タルノ靈魂ヲ與ヘ美善
 ノ性質ヲ賦スルヤ皆是自己ノ爲ニセシユアラズシテ全ク
 人ヲ樂マシムルガ爲ナリ又種々ノ丁ヲ以テ人ノ生命ヲ保
 チ其精神ヲ慰ムル是人ヲ愛シ人ヲ仁ムノ深キニ出ルノミ
 神ノ洪恩豈ニ謝スルニ堪フベケンヤ然ルヲ人若シ神ヲ信
 認セズ神ヲ愛敬セズ神ヲ仰望セズ總シテ己ノ靈ヲ以テ曰

神ヲ信ズ
 ルハ人間
 不可欠ノ
 義務ナル
 ナ論ズ

ノ身ヲ以テ神ヲ讚榮セズシバ是豈恩ニ背クノ甚シキニ非
 ズヤ上帝ノ大罪人タルニアズヤ
 故ニ神ヲ信シ神ヲ愛シ神ヲ望ムハ人間不可欠ノ義務ナリ
 靈生不可欠ノ飲食ナリ今細ニ之ヲ論セシニ神ヲ認メテ之
 ナ信ズルハ我が智慧ノ欠クベカラザル所ノ者ナリ何トナ
 レバ神ハ万有ノ首源ナルガ故ニ神ヲ識認スルハ取モ直サ
 ス事々物々ヲ覺知スルノ基礎根源ナリ然リ而シテ神カ世
 界ヲ經綸スルナクシバ天地間ノ事物ハ皆錯乱破壊シテ虚
 曠晦冥ノ世界ニ復スベキナリ斯ノ如ク人若シ神ヲ度外視
 シテ事物ヲ覺知セントスレハ智慧内ノ事物ハ皆錯亂漂蕩
 シテ是非善惡ヲ識別シ難キニ至ルベキナリ神ヲ認メテ之
 ヲ愛スルハ我が意旨ノ欠クベカラザル所ノモノナリ何ト
 ナレバ神ハ徳義ノ純全ナル鑑鏡ナルガ故神ヲ信愛スルハ

則我が心カヲ發育シ品行ヲ砥礪スルノ一大勢力ナリ人若シ徳義ノ龜鑑ナル神ヲ信愛スルナクニハ純全ナル天父ノ如クナル能ハズ猶鏡ニ依ラザレバ我が面貌ノ醜美ヲ辨シテ其醜穢ヲ滌除スル能ハザルガ如シ神ヲ認メテ之ヲ望ムハ我が心志ノ欠クスカラザル所ノモノナリ何トナレバ今世ハ是悲哀痛傷ヲ充ツルノ世ナリ辛苦艱難ノ處ナリ自己ヲ願ミ外物ニ接スルニ到ル處トシテ苦難ヲ覺モザルハナシ吾人此際ニ介立シテ其心志ヲ守リテ動カザルハ豈ニ是難中ノ難ナラズヤ而シテ我が靈魂ヲシテ堅固ニシテ移ラザラシムルハ何ゾヤ只神ニ依頼スルノ望アルノミ吾人ハ此ヲ望アリテ始メテ福樂ノ境内ニ入ルヲ得ルナリ(希伯來六十九)又外形ノ敬神ハ吾人ガ内部ノ敬神ニ進達スルガ爲ニ最モ大ナル益アルナリ如何トナレバ外部ノ敬神ハ

内部ノ敬神ヲ發育強盛スレバナリ斯ク論シ來レバ余輩カ是ヨリ述ベント欲スル所ノ宗教ノ結果ハ如何ナル者ナルヤ讀者ハ余輩ノ贅言ヲ待タズシテ業ニ已ニ明知セラルハナルベシ而シテ其結果ニアルナリ第一宗教ノ直接ナル結果ハ神人密着ノ結合ナリ蓋吾人ハ虔恪ノ行爲ヲ以テ敬神ノ外形ヲ以テ我が信望愛ヲ表證スレバ神ハ福厚寶貴ノ恩賜ヲ以テ吾人ニ降臨シ靈魂ノ生命ヲ爲シ敬虔ノ行爲ノ爲ニ尤モ必要ナル神能ヲ以テ之下体合シテ(彼得後一三)之ト偕ニ居ルナリ(約翰十四廿三)此ニヨリテ人ハ聖靈ノ殿トナリ(哥林多前三十六)活神ノ殿トナレナリ(同後六十六)故ニ保羅言ヘルアリ合於主者爲一靈也ト(哥二多前六十七)神人ノ体合タル今世ニ於テモ此ノ如クナルヲ得レハ來世ニ於テハ其体合如何計リ親密ナルヤ論ヲ

待タズシテ明ナリ
 第二宗教即神ト人トノ結合ノ間接ナル結果ハ人間ノ幸福
 ナリ何トナレバ吾人神ト結合シ其命ニ從テ我身ヲ立ツン
 バ則靈魂ノ才能モ身体ノ才能モ自然ニ眞誠ノ開達方向ヲ
 得テ兩ナガラ其分ヲ守リテ各己ノ分域ヲ踰ユルナシ斯ノ
 如クナレバ吾人ノ生活ハ井然規律アリテ吾人ノ心中ハ自
 ラ完全タル平康ヲ試ムルヲ得ベシ又神ト結合ヲ有シ造物
 主ノ定メタル位置ヲ護リテ之ヲ乱サズレハ吾人ヲ環圍ス
 ル万物ハ自ラ人間ト恰當ナル關係ヲ保チ各和合齊整シテ
 彼我ノ間ニ罅隙争鬭ヲ惹起スノ患ナカルベシ斯ノ如クナ
 レハ人間社會ハ整然タル幸福社會トナラン夫如此人各眞
 誠ノ宗教ヲ守リテ眞誠ノ神肖トナランニハ(人素ヨリ此ノ
 如クナラザルベカラズ)則自巳ヨリモ他人ヨリモ万物ヨリ

モ苦難禍害ヲ受クルノ理ナク寧々物々自己ノ位ヲ護リ己
 ノ境界ヲ超エテ他ノ區域ヲ犯スナキガ故世人ガ競フテ
 占領セント欲スルノ幸福ハ立ツテ待ツベキナリ
 由是觀之仁慈ノ造物者ガ吾人ニ賜與セシ幸福中ノ最大最
 上ナル幸福ハ神人ノ結合ナリ宗教即是ナリ吾人ハ唯宗教
 ニヨリテ眞誠ノ人トナルヲ得唯宗教ニ於テ眞誠ノ幸福ヲ
 護ルヲ得ルナリ

真正宗教論終

明治廿二年七月二十日印刷
明治廿二年七月二十四日出版
同廿二年七月 發兌

著者

宮城縣仙臺士族

故松井壽郎

宮城縣栗原郡高清水二百八十八番地

發行人

針生高章

宮城縣仙臺市東二番町卅一番地寄留

印刷人

岡本利三郎

東京麹町區
麴町十丁目四番地

發行所

愛々社

東京神田區駿河臺
北甲賀町十三番地

7x689

東 京 書 肆

賣 捌 所

全

全

十

十

森

東 京 錦 町 神 田 區 屋
字 壹 丁 目

東 京 三 丁 橋 區 屋
字 三 丁 目

東 京 芝 罘 區 柴 井 町 保
十 六 番 地

